［サステナビリティレポート2003］

SUSTAINABILITY REPORT 2003

真の企業市民であり続けるために

ECO Report からSustainability Reportへ

INAXでは、1999年6月に最初の環境報告書「ECO Report 1999」を発行し、それ以降毎年、各年の活動をまとめた冊子を発行してきました。内容は、INAXの地球環境問題への取り組み報告で、具体的には、第2次環境基本方針（1997〜2000）、第3次環境宣言（2001〜）に掲げた目標の成果報告でした。

しかし、企業の存続が、社会からの厳しい評価に左右される今、企業活動への理解を深めていただくためには、環境側面の報告だけではなく、企業が自らの持続可能性（サステナビリティ）をどう捉え、どのように向き合っているのかを、社会に対し説明していかなければなりません。私たちは、あらためてINAXの持続可能性について問い直し、INAXの本質的な企業姿勢や理念・思想、また実際の事業活動を通じた企業市民としての取り組みについて、報告・発信していくことが重要であると考えこの「Sustainability Report」の発行に至りました。

本冊子は、企業理念「INAX5」の実現に向けて取り組むINAXの姿を「INAXの事業・生活者との接点」、「INAXという生活舞台・企業市民としての取り組み」、「地球環境問題への取り組み」の3つの側面から報告するものです。

ステークホルダーのみなさまへ

INAXは、さまざまなステークホルダーの方々との関係の中で、
企業活動を行なっています。常にステークホルダーの方々の存在を意識し、
コミュニケーションに努めながら、より良い関係を構築することが、
「真の企業市民」としてのINAXの役割であると考えます。
このレポートが、INAXへの一層の理解に繋がれば幸いです。

CONTENTS

報告対象範囲と次回発行について

●INAXは、2001年10月21日トステム社と経営統合し、INAXトステム・ホールディングスの事業会社となりました。
●本レポートは、2002年4月1日から2003年3月31日までの事業会社INAXの活動報告です。
より解かり易い記載を目指し、初めての記載項目を中心に、過去の経緯や今後の目標なども併載しています。
売上・利益額、マテリアルバランスデータは、連結ベースで掲載しています。
そのほかの記載内容は一部文中等で明記している項目を除いて、INAXのデータ、項目に留まります。
IR関連の詳細情報は掲載していません。
INAXトステム・ホールディングスの事業報告を参照ください。⇒www.ithd.co.jp
●公式ホームページに関連情報を掲載し、随時更新していきます。各項目記載アドレスを参照ください。
本冊子内容は、会社情報サイトに掲載しています。⇒inax.co.jp/company/
●次回発行は、2004年7月を予定しています。
本冊子は、GRIガイドライン等を参考にしています。網羅性、検証性など不充分な点がありますが、
今後、ステップアップさせていきます。

真の企業市民であり続けるために

INAXは、生活者への真の満足の提供を通じて持続性を獲得し、企業市民としての役割を果たしていきます。

取締役社長
杉野正博

将来に向けた企業の持続性、このことは企業にとって二つの意味を持つと考えます。一つは自らが活力のある企業として持続性を持って成長し発展していくということ。もう一つは企業活動を通して地域・社会に貢献し地球環境に配慮することで企業市民として社会の持続性を支えていくということです。INAXは、「INAX5」という企業理念を制定して、既に20年近くたちます。この5つの理念の中心には「INAXは仕事を通して社会に貢献し、生きがいを見い出す生活舞台です」という考え方があります。この言葉は会社が事業の方向を、また社員一人ひとりが仕事の意味を考える上でたいへん示唆に富んでいます。最初に掲げた二つの意味も企業理念に通ずるものです。「持続性」という視点から、企業理念「INAX5」に立ち返って、2002年の事業の振り返りと今後の方向について、本レポートで報告します。

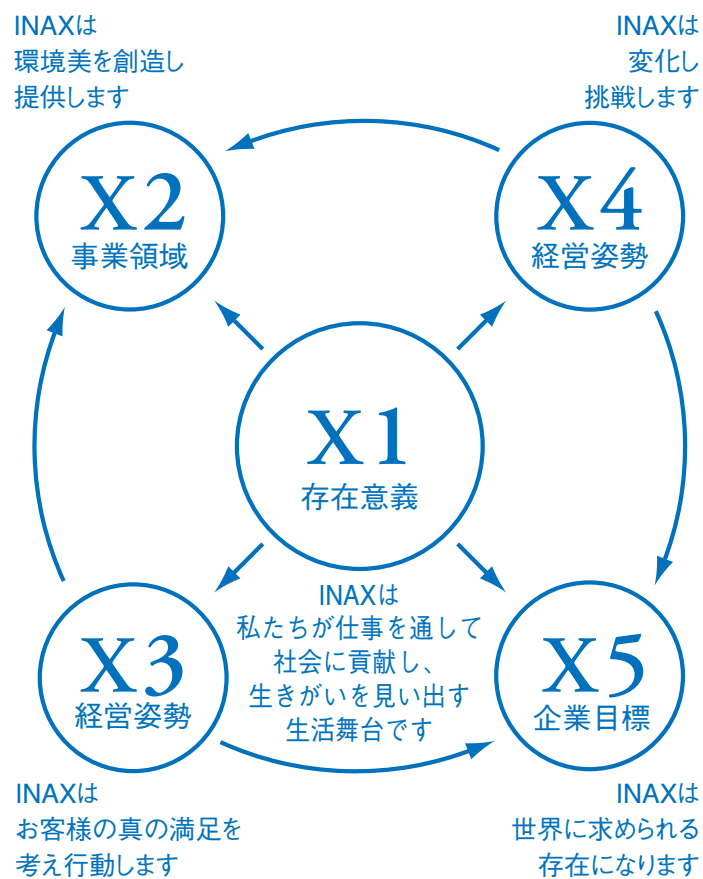
グローバル化の進展、経済の低迷、社会構造の変化が続く今、企業は常にその存在価値を問われています。フローからストックへと需要構造も大きく変化しています。また、少子・高齢化が進み、モノや情報が溢れています。このような社会環境の中、INAXは、生活者が望んでいる真の満足とは何かを深く掘り起こし、「豊かな住・生活環境の創造と提供」に取り組んでいます。そしてその実現のためには、常にお客さまの立場に立って新しいものやサービスを創り出す「技術・開発・提案力」を持つことが重要であり、それこそがメーカーとして自ら持続していく力であると考えています。

またINAXは、地球環境に配慮した循環型企業への進化を目指し、積極的に活動しています。例えば、成果のひとつであるINAXのエコ推奨商品は、新しい機能や価値を高めると同時に、再生資源の活用や、節水・節電機能を積極的に展開した低環境負荷商品です。具体的には、節水でしかも除菌イオン搭載の衛生陶器、ユニバーサルデザインを追求した全身シャワー搭載のバスルーム、快適なインテリアを創出する健康建材などがあります。企業としての持続性を目指すこうしたINAXの取り組みのキーワードは「健康と環境」です。そしてINAXが提供する新しい商品・機能・価値を、生活者をはじめとする全てのステークホルダーに「that's the idea !」と受けとめてもらうことが、INAXブランドを高めていくことに繋がると考えています。

INAXはこの2年間、第3次環境宣言で「循環型企業への進化」を掲げて活動してきました。そしてようやくその進化の入り口に立つことができました。あらゆる事業活動において真の循環型企業に進化することは大変難しいことです。しかし、INAXはこの高いハードルを将来に渡って乗り越え続けていくことで、持続可能な社会の構築に貢献し、「真の企業市民」として社会に認められる存在でありたいと考えます。

2001年10月にINAXはトステムと経営統合しINAXトステムグループの一員となりました。INAXは、グループ企業各社と連携し、企業市民としての活動をさらに広げ、深めていきます。これからのINAXの活動に対し、ご理解、ご支援をよろしくお願い致します。

企業理念 INAX5

「INAX5」は、INAXがどんな企業でありたいかを明らかにしたものであり、
INAXの企業活動の目指す方向を指し示したものです。
INAXの社員が「INAX5」を仕事に生かしていくことによって企業の実態もまたありたい姿に近づいていきます。
「INAX5」はINAXが「サステナブルな企業」を目指す上で、企業行動の基盤となる理念です。

（1985年制定）

X1	企業は単に利益を生み出すことだけが重要なのではありません。INAXは、社員一人ひとりが豊かですばらしい人生をつくりだすために、貴重な時間を過ごす生活舞台です。
X2	「環境美」という表現は、人々が心理的な満足を得る生活空間の美の総称です。INAXは、ビジネスを通して、美しく潤いのある「生活空間・生活文化」を創造し提供します。
X3	INAXは、生活者の立場に立った発想を大切にします。物質的にも精神的にもトータルに生活者の真の満足を得る魅力を創り出していきます。
X4	INAXは、常に新しい時代の価値を創造していきます。過去の価値観に縛られることなく、いつも意識と行動を変革し、21世紀に求められる企業への進化を図ります。
X5	INAXは社会と共存し、社会に求められる存在価値のある企業になることを目指しています。

INAXの目指す姿

INAXの「目指す姿」とは、
INAXが真の企業市民として存続し、発展していくことです。
INAXは、目指す姿の実現に向け、具体的な経営計画
「VISION2005（=2005年にありたい姿）」を立て、
事業行動の変革に取り組んでいます。

X1 存在意義

X2 事業領域

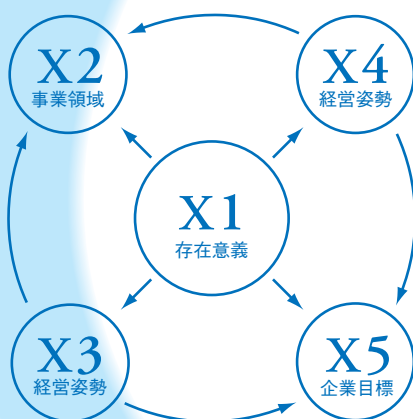
X3 経営姿勢

X4 経営姿勢

X5 企業目標

文化度の高い
デザインオリエンテッド
カンパニーへ

生活者の
真の満足を提供する
サービス業型製造業へ

人と地球を考えた
環境美を創造し提供する
企業へ

現業の
リデザイン

国際事業の展開

生活者密着型
サービス事業の
展開

21世紀型
新規事業の
創出

企業価値
追求型経営の
実践

社員の
自己変革の
実現

［2002年ダイジェスト］

170シリーズのエコ推奨商品を発売。
人と地球を考えたものづくりを推進しています。
⇒P.12
⇒P.43〜

サティスリトイレシリーズはじめ、**リフォーム対応商品を拡充**し、快適な暮らしを提案しています。
⇒P.10

各商品は、いつまでも、誰にでも、使いやすい**ユニバーサルデザイン**の設計思想にも基づいています。
⇒P.11

上海に販売を行なう直営ショールームをオープン。
中国での製造・販売を本格的に開始しました。
⇒P.13

お客さまとの接点を大切にした活動を継続しています。
⇒P.14〜

独自に、独創的に、継続した文化活動を行なっています。
⇒P.24〜

第3次環境宣言を継続して推進しています。
ベトナム「VINAX」、中国「蘇州伊奈建材有限公司」が、ISO14001を認証取得しました。
⇒P.27〜

「INAXトステムグループ行動指針」を制定し、指針の遵守とその再徹底が義務づけられました。
健康で安全な職場環境の維持継続に努めています。
⇒P.18〜

会社概要

inax.co.jp/company/outline/

社　　名	株式会社INAX（英文社名INAX Corporation）
本社所在地	愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地
創　　立	1924年（大正13年）2月1日
資 本 金	484億68百万円
社　　員	5,606名（2003年3月31日現在）
事業領域	タイル・建材、住宅設備機器、事業開発

2001年10月21日、INAXとトステムは経営統合し、純粋持株会社「株式会社INAXトステム・ホールディングス」を創設しました。INAXトステムグループは、住生活産業の高度化を推進する「スーパーテクノロジー企業集団」を目指し、グローバルで透明度の高い、21世紀の模範となるグループ連結経営を実践しています。

［経営体制、組織体制］

生活者の潜在ニーズの変化を捉え、お客さまの真の満足を考え行動できる組織へ

2003年4月マーケティング機能と商品開発力の強化を狙い、新組織をスタートさせました。

INAXの組織は、商品の開発から生産を担う事業本部、お客さまとの接点である営業本部、経営企画や人事、技術統括部門などの本社・スタッフ部門の大きく3つのグループから成り立っています。2003年4月からは、マーケティング企画部を事業本部と営業本部の間にまたがる部門として新設し、両本部と連携し、商品企画から販売に至るまでのマーケティング機能を強化しました。これまでもお客さまの声を大切にした商品開発を進めてきましたが、さらに、「INAX5」の“X3”で掲げる「お客さまの真の満足」を提供するものづくり、サービスを実現すべく体制を整えました。

また、フローからストックへ、ものからサービスへとお客さまの要求も変化しており、INAXもまたサービス業型製造業へ、循環型企業へと進化していかなければなりません。そのために、リフォーム事業推進部やサービス事業推進部を新設し、組織力の強化を図っています。

環境戦略委員会は、主要部門のトップと関連部門長で構成し、全社を横断した環境戦略の推進を継続して行なっています。

※環境マネジメント推進体制⇒P.29

［全社組織図］

生産拠点：国内14工場
営業拠点：3統括支社、17支社
海外拠点：5事務所
子会社：国内13社、海外5社
主要関連会社：国内11社、海外5社

監査役 ― 監査役会
社長 ― 取締役会
経営会議

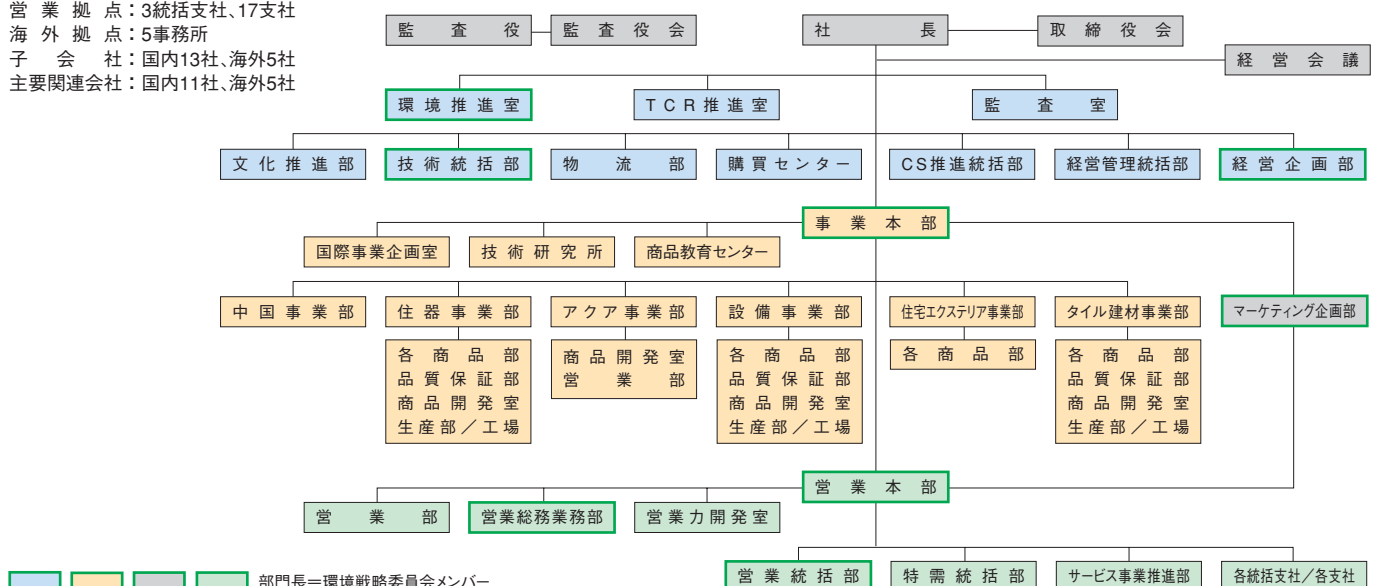
環境推進室　TCR推進室　監査室

文化推進部　技術統括部　物流部　購買センター　CS推進統括部　経営管理統括部　経営企画部

事業本部
- 国際事業企画室　技術研究所　商品教育センター
- 中国事業部
- 住器事業部（各商品部／品質保証部／商品開発室／生産部／工場）
- アクア事業部（商品開発室／営業部）
- 設備事業部（各商品部／品質保証部／商品開発室／生産部／工場）
- 住宅エクステリア事業部（各商品部）
- タイル建材事業部（各商品部／品質保証部／商品開発室／生産部／工場）

マーケティング企画部

営業本部
- 営業部　営業総務業務部　営業力開発室
- 営業統括部　特需統括部　サービス事業推進部　各統括支社／各支社

部門長＝環境戦略委員会メンバー

INAXの事業・生活者との接点

経済活動の報告

生活者の真の満足に応えていくために、「発想力」を高め
新しい商品・機能・価値を新鮮な感動や驚きとして
提供できるように取り組んでいます。

INAXは独自の発想力とデザインを大切にしたタイル・建材、住宅設備機器などの商品やサービスを提供しています。
応接空間のようなトイレルーム、リビングの真ん中に置けるキッチン、バスタブに浸からなくても温まるシャワー・ド・バスといった入浴スタイル…。
INAXは、生活者の真の満足を考え、地球環境にも配慮しながら、新しい暮らし方を提案しています。もちろん、快適な使い勝手や安心の品質、先進機能を盛り込んで。
INAXの「発想力」が新しい暮らしの価値を創造します。
2002年には、大きな事業の方向としてリフォーム事業に本格的に取り組んでいく「リフォーム元年」を打ち出しました。また、グローバル化の進展にあわせて海外事業の拡充も行なっています。
目指す姿の実現に向けて取り組む「事業活動」について本章で報告します。

生活者に真の満足を
提供し続けていくために

　近年、私たち建設・住宅産業に携わる企業を取り巻く環境は大きく変化しています。公共建築物の量的な充足や、本格的な少子高齢化社会の進展の影響もあって、生活者の意識も「モノ」の充足だけでなく、暮らしとの関係性をより大切にする「ココロ」の充足を求める時代へと、価値観が大きく変容していることを認識しなければならないと考えます。こうした環境の変化に加えて住宅の長寿命化も進み、生活者と社会全体の関心は生活環境全般の充実へと移行しています。

　INAXはそのような変化に対する具体的な動きを開始しています。従来INAXと生活者の接点といえば、建物の新築時が主体でした。これからは新築時に止まらず多方面への取り組みを柔軟に進めていくことで、今後予想されるメンテナンスやリフォーム、さらには生涯に渡ったサービスへのニーズの拡大に対応していきます。一つの例としては、リフォーム対応力を強化した商品群の充実に加え、生活者が安心してリフォームできるよう、良質なリフォーム店のネットワークづくりをスタートさせました。

　社会の中で生きる企業として、1人の生活者の生活全体に、生涯を通じた安心と快適を提供すること、さらにはリサイクルなど環境問題を通して社会全体の快適な生活に貢献することなど、活動のステージを大きく広げる時期に来ていると考えます。

　これからもINAXは、企業活動を通じて生活者に真の満足を提供する企業であり続けます。

専務取締役
営業本部長
浅 井 克 彦

[ブランドスローガン&ステートメント]

　INAXの事業を取り巻く環境は、時代の中で大きく変化しています。私たちはステークホルダーとの共有財産である『INAXブランド』の価値をより高めていくために、社員の「ひとつひとつの声」を結集して『ブランドステートメント』と『ブランドスローガン』をつくりました。これらは、ステークホルダーとの約束です。

　INAXブランドが、お客さまやビジネスパートナーをはじめとする全てのステークホルダーに約束できることとは何かを明確にしてその実現に取り組んでいく。そうした活動の継続によって、ステークホルダーとのより確かなパートナーシップを構築し、揺ぎないINAXブランドを創出していきたいと考えます。

　ブランドスローガン「that's the idea!」は、「それ、おもしろい!」「それ、いいじゃない!」という意味の言葉です。オリジナルの発想を楽しみ、それを行動力で形にしていくアクティブな掛け声。INAXの核は「発想力」です。それは、企業設立当初から独自のアイデアを各種の製品に結実させて事業展開してきたINAXの姿勢そのものでもあります。

　INAXは、idea(アイデア)に込められた意味・発想を、ideaのある提案を大事にします。ideaは決して商品開発の中だけにあるのではありません。お客さまと接するショールームでも、原料の購入や物流場面でも……。さまざまな事業活動の中で、INAXならではのideaを実現し、お客さまの真の満足を提供していきます。

ブランドスローガン

that's the idea !

ブランドステートメント

私たちが見つめているもの

それは
まだ誰も気づいていないもの
誰も言葉にしていないもの

私たちの小さな発見が
これからの暮らし方を
大きく変えるかもしれない

私たちが信じているもの

それは
誰よりもしなやかな発想力
新しい暮らし方をイメージする力

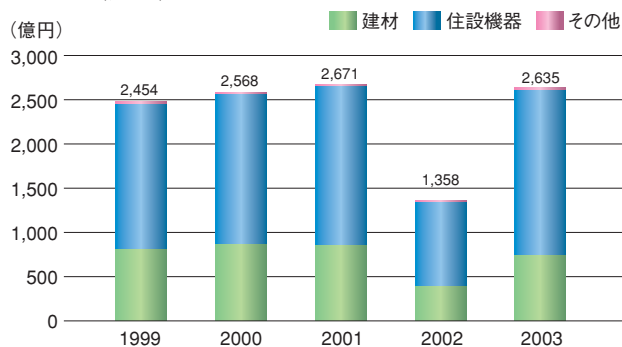
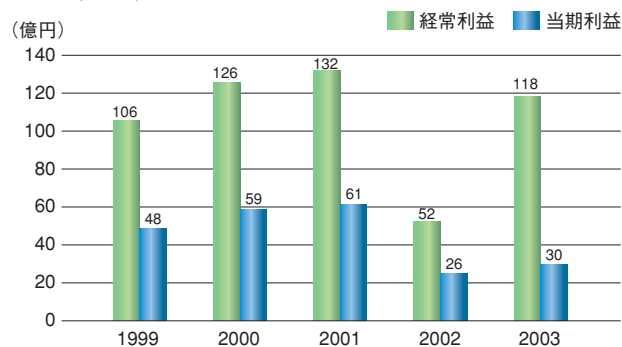
私たちのアイデアが
これからの毎日に
新鮮な驚きと喜びをもたらすかもしれない

既成概念を捨てよう
新しい取り組みを始めよう

私たちが創り出すものが
私たちにしか創り出せないものであるために

事業の展開

事業概況　2002年度（2003年3月期）

●売上高（連結）の推移

●利益（連結）の推移

※：2001、2000、1999年数値は、前年10月21日から当年10月20日までの1年間
　2002年数値は、2001年10月21日から2002年3月31日までの5.33ヶ月間
　2003年数値は、2002年4月1日から2003年3月31日までの1年間

新設住宅着工戸数が減少する中、リフォームや取り替えなどの需要の開拓・獲得や、サービス事業の展開に全部門を上げて取り組みました。また、中国をはじめとする海外も包含した生産の最適化や効率化とともに、徹底的な業務の見直しによるコストダウンを図り、収益性の改善にも努めてきました。

タイル・建材事業では、健康建材「エコカラット」や住宅外壁などの、新たな市場ニーズにマッチした商品の開発や販売を進めました。

住宅設備機器事業では、新コンセプトトイレ「satis（サティス）」をはじめとした、空間提案ができる新商品の投入や、商品の新機能の充実などにより、順調に業績を拡大させました。

サービス事業

生活者に密着したサービス業型製造業へ

これまでINAXと生活者との関係は、ともすると家を新築した時の接点に限られてしまったケースが少なくありませんでした。
これからは、リフォームやメンテナンスなど、ライフステージに応じ、生涯を通じたサービスを提供していくことに注力していきます。

i-mate事業（2000年4月～）

i-mate.jp/

水回りの修理やお手入れ、お掃除など、住まいに関わることをまるごと頼めるお得なサービスを会員制で提供しています。

初期段階での機器のメンテナンスから、5年10年経過後の外壁や水回り空間のリフォーム対応など、快適な住まいを維持するためには、さまざまなサービスが必要とされています。メンテナンス面では、修理への迅速な対応はもとより、点検やクリーニングサービスなどを通じて、不具合が生じる前に手当てしていくこともこれからの重要なサービスと考えています。i-mate事業では、生活者に密着して、生活者の価値につながるサービスの提供を継続できる仕組みを構築しています。

具体的な会員へのサービスとしては、急な水漏れや商品の故障などに、電話一本で365日24時間いつでも専門家が適切に応急処置のアドバイスやサポートを行なうほかメーカーを問わない水回り機器の修理依頼も受け付けます。実際の修理やメンテナンスには、㈱INAXメンテナンスをはじめとするプロのスタッフが万全の体制で対応します。クリーニングでは、エアコンやレンジフードの洗浄から水回りメーカーならではのサービスとして、バスタブ裏側の高圧洗浄など生活者のニーズに対応したサービスの充実を図っています。便器など既存の陶器表面に水アカを寄せ付けない「リフレッシュプロガード加工」の提供や、オールインワン浄水栓のレンタルも展開し、生活者の満足に近づくサービスの充実に努めています。

リフォーム事業

より快適な暮らしをリフォームで提案します。

2002年は、リフォーム元年と銘打ち、リフォーム商品の積極的な導入と市場浸透に果敢に挑戦してきました。

リフォーム商品群の拡充

inax.co.jp/reform/

2002年4月、好調のタンクレストイレ「satis(サティス)」に、床工事不要の排水アジャスターを使用した「サティスリトイレ」の追加をはじめ、リトイレ各シリーズや、トイレと一緒に壁や床の貼り替えをパッケージングし、しかも1日でトイレの使用が可能な「ワンデイリトイレパック」などリフォーム対応のトイレ空間商品を充実させました。こうした施工性を考慮した商品を、システムバス、化粧台、キッチンやエコカラットなどでも展開しています。

例えば、システムバスルーム「i-bath(あいばす)2003」では、リフォームの際に搬入しやすい分割防水パンを採用しています。また、システムキッチン「ピアッセ」では、配管やダクトスペースをキャビネット内に設け、既存の換気用口や既存給排水位置が利用できる工夫を盛り込んでいます。その他、リフォーム用洗面化粧台「リフラ」、リフォーム用住宅外装材「かべ美人」など、住宅設備、タイル・建材商品全体を通じ、施工性を向上させたリフォーム対応商品で、生活者にとっての不具合を少しでも解消していきたいと考えます。既存空間をより快適で使いやすいデザイン性の高い空間にできるようさまざまな商品を開発しています。

リフォーム事業の展開

dds.inax.co.jp/reform/

リフォーム商品群の強化と合わせ、設計・施工業者への支援サービスも展開しています。2001年8月には、主に工務店を対象とした支援サービス「快傑ホームズ」をスタートさせました。これは、新築からリフォーム・建替えまで、設計・施工業者に、生活者とのつながりを強めて生涯顧客化を推進するため、お客さま専用ホームページ制作や顧客管理ツール、集合研修の実施などを提供するものです。INAXは、地域に密着した設計・施工業者と生活者との密接な関係づくりを応援しています。

また、2003年4月からは、同様に、工務店・リフォーム店・各種工事店などを支援するサービスとして、『INAXリフォーム　ネットワーク』を立ちあげました。

住宅の老朽化、高齢化社会の進展にともなうバリアフリーへの対応、さらには生活者の快適な住まいへの関心の高まりなど、住宅リフォームの需要は増えています。しかし、これまでは生活者に対するリフォーム関連の情報が不足し、工事の依頼先や価格の目安がわかりにくく、リフォームを考えている生活者の二人に一人は「どこに依頼すればいいか」悩んでいるのが実態でした。

一方、設計・施工を行なう企業は、生活者から選ばれる存在になるためには、認知度を高め、提案・見積りのスピードアップを図り、アフターサービスを充実させるなど、すべての面で今まで以上の機能を持つことが要求される方向にあります。そこで、これらの市場実態に対応していくため、リフォームに取り組む工務店・リフォーム店・各種工事店などへのさまざまな支援メニューを用意しました。実際に生活者に接する設計・施工業者を支援していくことが、生活者の満足向上にもつながっていくと考えます。

快傑ホームズトップページ　www.K2-homes.com

ユニバーサルデザインの展開

inax.co.jp/ud/

ideas for everyone

暮らすよろこびを、ひとりひとりに。

料理の楽しさ、お風呂に入る気持ちよさ、家族のだんらん。そんな毎日の暮らしの中で生まれるよろこびを、すべての方に、いくつになっても味わっていただきたい。そんな想いのもと、高齢者、体の不自由な方、子どもたちなど、それぞれ違うお客さまの個性を尊重したものづくりを行なっています。これからも、一人ひとりに暮らすよろこびを感じていただけるようなアイデアのある商品やサービスを提供していきます。

ユニバーサルデザインのための3つの取り組み

INAXの開発プロセス

お客さま相談センター（関連情報⇒P.15）に寄せられる意見は、商品開発や改善・評価基準の見直しなどに活用しています。
品質の高い商品をより効率的に生み出すために、開発部門と生産部門が連動した新しい開発・生産システムを採用。その過程でもお客さまの声を反映しています。

INAXのものづくりの基準

安全であること
使用される場面を考慮した、安全な設計であること。
表示やサインが、見やすく認識しやすいこと。

快適であること
さりげない配慮で、安らぎの感じられる空間・機器であること。
お手入れや部品の交換、メンテナンスなどが簡単であること。

使いやすいこと
からだの機能の低下、変化をサポートする便利なものであること。
からだに負担をかけない操作であること。

INAXのショールーム（関連情報⇒P.15）

ショールームアドバイザーの福祉住環境コーディネーター資格取得を推進し、プロならではの知恵と経験でお客さま一人ひとりのニーズにお応えします。
おうちの近くのショールームで、最先端の技術と商品を実際に見て触って体験できます。

INAXのユニバーサルデザインへの取り組みは1980年代後半に始まりました。1985年当時、65歳以上の高齢者のいる世帯の割合は既に25%を超え※、住宅設備機器の4つに1つは高齢者が使っているのが現実でした。商品の企画、開発、提案などの仕事の現場には、高齢者や障害者配慮への要望が届き始めており、問題意識を持ってこの声に応えていこうという動きが生まれました。1992年、現場の声から得たノウハウを集約した専用カタログ「やさしさへのアプローチ」を発行し、ノウハウの共有化とレベルアップを目的に「SH（シルバー・ハンディキャップト）研究会」を発足させました。そしてそれ以降、組織体制を整えながら、当初の思想を大切に、「いつまでも、誰にでも」使いやすく快適で安全な「共用品」＝“ユニバーサルデザイン”の研究・開発を続けています。

※厚生労働省大臣官房統計情報部社会統計課国民生活基礎調査室「国民生活基礎調査」より

PRODUCT

inax.co.jp/products/bathroom/

10年先を考えた浴室へ、これからもずっとバスライフが楽しめる浴室に

シャワーだけでからだが温まる全身シャワー「シャワー・ド・バス」

「i-bath2003」のオプション・アイテム「シャワー・ド・バス」は、アームに設置された10ヵ所のノズルから霧状のシャワーが出て、全身を温め、浴槽浴に近い満足感が得られます。アームの角度とノズルの噴出角度を調整すると、体格に合わせて最適な状態でシャワーが当たるように設計されています。システムバスのオプションアイテムとしての他に、既存のお風呂に簡単に設置できる後付けタイプもあり、リフォームにも対応できます。

研究者の声

ある高齢の女性から「入浴サービスは男性が来ることもあり頼みにくい。浴槽に入るのはあきらめました」と言われました。それで浴槽浴と同じ満足感を得られるシャワーはできないかと思い、初期研究が始まったんです。研究用全身シャワー装置を作り、昼からみんなで何時間もシャワーを浴びてデータを集め、全身にシャワーを当てると体が温まり、足元も温めると満足感が高まることがわかり、商品化への確信を得ました。

技術統括部
空間デザイン研究所
永田まゆみ

エコ推奨商品の展開

inax.co.jp/idea/ecoideas/

eco ideas !

エコロジー発想で、あたらしい快適をつぎつぎと。

私たちの生活は地球環境に負荷を与えています。いっぱい使って、いっぱい出す生活から、少ししか使わず、少ししか出さない環境を考えた安心・健康な住環境へ。もちろん、お客さまの満足を考えた商品やサービスで、より快適な暮らしを。

地球空間と生活空間の双方を見つめながら、INAXはものづくりを進めています。「つくる」「つかう」そして使い終わった後の「もどす」まで、商品のライフサイクル全体で、資源・エネルギーの使用量や廃棄物を削減し、同時に商品やサービスの価値を高めていく。

INAXのエコ発想から生まれたINAXエコ推奨商品が、暮らしを変えていきます。

人と地球を考えたものづくり

エコ推奨商品とエコ商品化率

INAXの商品開発システム「ライフサイクルデザイン／LCD（関連情報⇒P.43）」の評価基準に適合したエコ推奨商品は、2002年3月の115シリーズから2003年3月末時点で170シリーズに増え、全商品売上の約50%に達しました。

「再生材使用60%」「節水50%」「リユース設計」など、商品のエコ特長を付記したエコ推奨マークを添付し、お客さまにわかりやすい表示に努めています。

尚、2003年4月1日時点では、新商品が加わり、全606シリーズ中281シリーズに拡充しています。

洗面化粧台「エルシィ」

微細シャワー吐水

シックハウス対策

シックハウス症候群とは、室内空気汚染物質（VOC）が引き金となって発症する体の不調やアレルギーに似た症状のことです。日本人の約5%が患者である可能性が高いと言われ、社会問題にもなっています。INAXでは、厚生労働省VOC空間濃度指針値に準拠した独自の低VOC基準を定め、基準達成した商品を「低VOC商品」として2003年4月より選定しています。また、健康建材エコカラットは、日本で初めて「ホルムアルデヒド低減建材認定」を取得したVOC吸着機能を持つ内装材です。

洗面化粧台「すまい上手II」

システムキッチン「ピアッセ・アイズ」

健康建材「エコカラット」

海外事業

INAXの海外事業は大きく3つあります。

1つは、INAXの技術を生かした商品を海外で生産し、海外の市場で販売することです。ベトナムのVINAXはトイレを生産していますが、ハノイとホーチミンを中心にベトナムの市場での販売に成功し、好調に事業を拡大しています。台湾INAXも台湾市場における外装タイルの製造・販売で利益があがるところまで成長しました。他に、大林INAX（韓国）でユニットバス、SIME INAX（マレーシア）でトイレ、Roca-Inax（スペイン）でシャワートイレの事業を行なっています。

2つ目にINAXの商品を海外に輸出する事業があります。他社にはない差別化された技術や機能を訴求しながら、商品の輸出を進めています。例えば、日本の高品位の外装モザイクタイルを、香港をはじめとするASEAN市場に輸出しています。2002年には健康建材「エコカラット」の販売が韓国で始まり、北米や韓国でのシャワートイレの販売も推進しています。今後は、環境と経済活動の調和をはかりながら、世界に受け入れられる新しい機能商品や提案型商品の輸出に挑戦していきます。

3番目に、INAXの海外拠点で生産した商品や外国製品を輸入調達し、日本市場での売上拡大や原価低減による利益確保を進めています。建材事業では、日本国内にインポートセンターを設立し、欧州や中国・タイなどのタイルを輸入、住宅設備事業もトイレや水栓金具を中心に展開し、今後はシャワートイレや関連部材の輸入調達も行なっていきます。

特に今後の重要な拠点となるのが、伊奈（中国）投資有限公司とその傘下の各会社です。1996年の蘇州伊奈衛生潔具（水栓金具）創設以降、順次事業を拡大してきました。2002年は、伊奈（中国）投資有限公司が2月に設立し、蘇州伊奈陶瓷（衛生陶器）、杭州愛信伊奈機電（シャワートイレ）が相次いで操業を開始。蘇州伊奈建材（タイル）と蘇州伊奈衛生潔具は生産ラインを増強し、本格的な事業推進体制が整いました。魅力的な中国市場での製造・販売と日本への調達拠点としての役割を担います。さらに、コスト優位性を生かしてアジアやオーストラリアなど近隣諸国への輸出生産拠点としても注力していきます。VISION2005で掲げる国際事業の成功は、中国事業の成否にかかっています。

国名	会社名	資本金	設立	主要商品	従業員数
中国	蘇州伊奈衛生潔具有限公司（蘇州）	15億円	1996年8月	水栓金具、浴槽	442名（6名）
	蘇州伊奈建材有限公司（蘇州）	21億円	1998年2月	床・壁タイル	233名（9名）
	蘇州伊奈陶瓷有限公司（蘇州）	12億円	2001年7月	衛生陶器	217名（10名）
	杭州愛信伊奈機電有限公司（杭州）	260万USD	2001年12月	シャワートイレ	33名（4名）
	伊奈（中国）投資有限公司（上海） www.inax.com.cn	3,000万USD	2002年2月	—（販売）	51名（4名）
台湾	台湾伊奈股份有限公司〈台湾INAX〉	2.82億TWD	2000年10月	外装壁タイル	112名（2名）
韓国	大林INAX株式会社	110億KRW	1996年3月	ユニットバス	109名（0名）
ベトナム	INAX-GIANG VO SANITARY WARE CO.,LTD 〈VINAX〉	810万USD	1996年5月	衛生陶器	320名（5名）
マレーシア	SIME INAX SDN. BHD.	2,500万MYR	1984年6月	衛生陶器	333名（0名）
スペイン	Productos Electronicos del Baño Roca-Inax, S.A. 〈Roca-Inax〉	96万EUR	1991年9月	シャワートイレ	2名（0名）

従業員数は2002年12月現在　（　）内は、日本人出向者数

生活者との接点—エンドユーザーコミュニケーション—

INAX5「X3：お客さまの真の満足を考えて行動します」を掲げて
常にCS（Customer Satisfaction＝お客さま満足）の向上に取り組んでいます。

INAXでは、カタログなどの冊子や電子媒体を使って商品やサービスの情報を発信しています。また、ショールームやお客さま相談センターには、直接お客さまから数多くのご意見が届き、改善のご指摘や新しい開発のヒントをいただいています。インターネットを通じた資料請求ほか、さまざまな接点から個人情報のやりとりも増えてきました。商品関係を中心としたよりわかりやすい情報発信を行なうと同時に、INAXに蓄積される個人情報の取り扱いについてのルール策定も急いでいます。

個人情報の取り扱い

急速な情報技術の発達とインターネットの普及から、大量の情報が瞬時に世界中をかけ巡る環境が整っています。実際に、様々な企業や団体から社員、顧客、会員の顧客情報・名簿が流出する事件が相次いでいます。こうした事件の原因の多くは、外部からの不正アクセスよりも内部の問題意識の欠如や不適切な管理による場合がほとんどであり、国は、個人情報を取り扱う事業者に対して、個人情報の取得や利用に際して、企業が守るべきルールとして、個人情報保護法を5月に成立させました。

INAXは、こうした背景を踏まえ、2002年6月24日に経営会議通達にて、顧客情報の管理について注意するよう全社発信すると同時に、顧客情報管理のための検討会を発足し、対応の検討を開始しました。

検討会では、情報の流出や毀損といったお客さまに迷惑のかからないようにするための体制を再点検するとともに、お客さまにINAXの商品をできるだけ早く届けられるように、また、お客さまが必要な時にINAXの商品やイベント、企業概要といった情報を入手できるような情報の発信の仕方を検討しています。

具体的には、INAXがお客さまの個人情報を取り扱う際の約束である基本方針の策定や、個人情報取り扱いルールの策定、社員教育の充実を図っていく予定です。

生活者視点のカタログ制作

各種マス広告、ホームページ、カタログなどをはじめとする販促ツールにおいてINAXは常に『わかりやすい表現』で情報発信することを心掛けています。特に近年高まりを見せているリフォーム需要への取り組みに関しては、商品選定におけるエンドユーザーの関与度が飛躍的に高まっていることも考慮し、生活者視点でのコミュニケーションを大原則として各種ツール制作に反映させています。

取り組みの一例として、カタログについては新規アイテムのリリース後、ある程度市場浸透が進んだと思われる時点で、エンドユーザーを対象とした評価調査を定期的に実施しています。具体的な調査手法としては、INAXホームページからカタログ請求された方を対象にメールアンケートへの協力をお願いしたり、時にはグループインタビューに参加いただくなど、表現の部分に止まらず、ページボリュームや冊子のサイズ、紙質や文字の大きさに至るまで、あらゆる要素に渡って仮説に対して検証を加えるというスタンスで意見を集め、制作に反映させています。

新しい試みとして、生活情報誌的に編集したカタログや、生活者のお役立ち情報を掲載した冊子を提案しています。

ショールーム

inax.co.jp/showroom/

1979年名古屋に初めてのショールームを開設以来、お客さまにINAX商品を実際に見て触って体験できる場として、拡充を進め、2003年4月現在、全国37箇所のショールームがお客さまとの接点として重要な役割を担っています。ショールームへの来館者数は年々、3〜7%前後で伸び続けており、昨年度の年間来館組数は、全国で37万組を超えました。

INAXのショールームには、商品についてなんとなく知りたい方から、図面を持って商品選定にみえる方など、様々なお客さまがいらっしゃいます。わかりやすい説明パネルや展示を行なうと同時に、ショールームアドバイザーは、インテリアコーディネーターや福祉住環境コーディネーター、2級建築士などの資格を取得し、プロとしての知識と経験で、来館するお客さま一人ひとりの要望に応えられるよう努力しています。

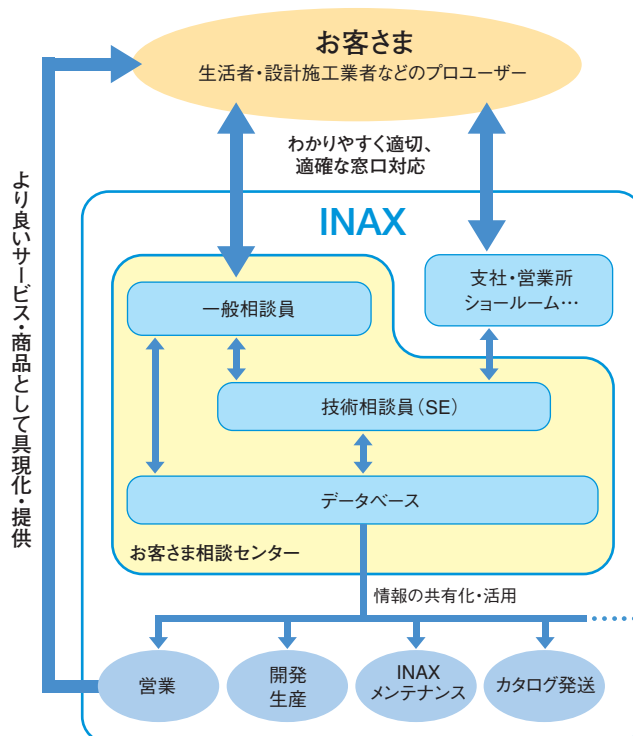
無料での見積もりやCAD図面の作成など、サービスの充実はもちろん、全国一斉のショールームフェアやリフォーム相談会など数々のイベントを実施し、地域に根ざしたショールームを充実させています。2002年には、立川、藤沢、高崎ショールームが、2003年4月には山口ショールームがオープンしました。

お客さま相談センター

☎0120-1794-00

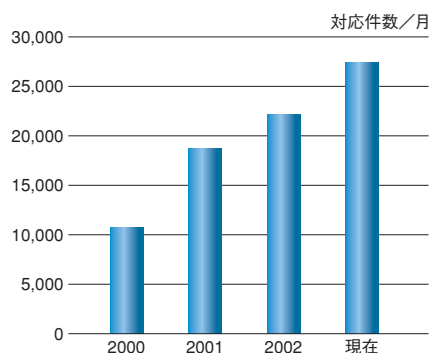
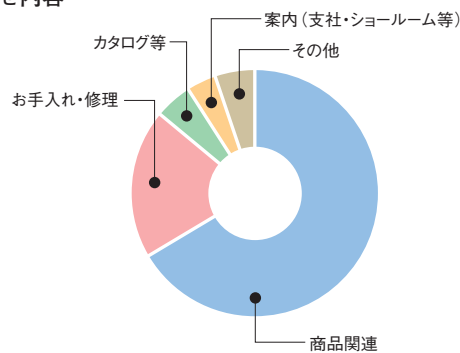
INAXのCS（お客さま満足）向上への取り組みの主要な一翼を担っているお客さま相談センターは1999年東京、大阪、名古屋にあったお客さま相談室を一元化し、新たに発足しました。その大きな役割としては、お客さまからの問合せに、迅速に、かつ満足していただける応対を心掛けると同時に、いただいた貴重なお客さまの「声」を製品やサービスの向上に役立て、お客さまにより高い満足を得ていただくことと心得て活動しています。

現在、お客さま相談センターには、約28,000件／月もの意見・問合せが寄せられています。お客さまとしては生活者であるエンドユーザーだけでなく設計や工務店などのプロユーザーからの問合せにも対応し、専門的な質問にもお答えしています。問合せの内容は、商品の機能・構造・材質や組み合せ・施工方法など、商品関連が67%、次にお手入れ・修理が20%、あとはカタログ請求などとなっています。

お客さま相談センターにいただいた問合せ・要望については現在100万件近い「声」がデータベース化され、それを日々参考にして商品企画や業務改善に生かす仕組みを構築しています。さらに重要項目については定期的に開発、営業や生産などの関

係部門に提供するとともに、協同して商品開発や改良、評価基準の見直しや、見やすくわかりやすいカタログ・取り扱い説明書などへの改善に活用しています。その結果、お客さまの声を反映した商品も生まれています。

また、修理の依頼には子会社である㈱INAXメンテナンス（フリーダイヤル：0120-1794-11）が365日体制で対応しています。そしてその修理に関わる情報も工場での品質管理に生かし、お客さま視点に立った商品づくりに役立てています。

このようにお客さまの声をさまざまな場面で活用するとともに、特に重要な案件については経営課題として迅速に対処できるよう関係役員への報告体制と随時閲覧体制を構築、運営しています。

●月間対応件数

●問合せ内容

お客さまの声に応えて　お客さまの相談センターへ届く声

1.梁下に設置できる洗面化粧台がない

2001年10月、相談センターに「洗面化粧台を梁下に設置したいが高さが1,800mm以下で収まるタイプがないか」という問合せが入りました。当時、業界では高級化により洗面化粧台の高さが高くなり1,800mm以下に対応できる商品がなくなっていました。3ヶ月間で41件の類似問合せがあり、特にその中の25%が三面鏡での対応希望でした。しかし「残念ながら対応できません」と返事するしかありませんでした。

お客さまの声を商品開発部門へ発信し、2003年4月、増改築など天井高さが低い場所に設置できる洗髪洗面化粧台「オフト」（セット寸法高さ1,780mm）の発売につなげることができました。

inax.co.jp/products/powderroom/

2.カタログ、取り扱い説明書、施工説明書を見てもよくわからない！

お客さま相談センターにはカタログや取り扱い説明書等の情報不足やわかり難さを指摘される苦情や要望が年間550件ほど入っています。

シャワートイレなどの機能商品の中には、見やすく、わかりやすい資料があれば問合せをしなくてもお客さまがご自分で解決できる場合が往々にしてありました。相談センターではカタログや取り扱い説明書をお客さまの視点でもっとわかりやすく改善するために広告宣伝部などと定期的に打ち合わせを行なっています。

このような声を反映して作成した「水まわりピカピカブック」は、お手入れや修理のお客さま向けガイドブックとして、好評を得ています。

INAXという生活舞台・企業市民としての取り組み

社会的活動の報告

INAXはいきいきと働ける生活舞台の創出を目指し、
企業市民として文化・社会貢献活動を
地道に継続しています。

INAXは仕事の場を「生活舞台」であるととらえています。生涯の多くの時間を仕事の場で過ごすという意味ではそこは大切な生活の場といえます。また、社員一人ひとりが仕事の役割を担っているという意味で、生活者をはじめとする多くのステークホルダーがINAXの仕事の成果を見守る「舞台」でもあるわけです。

こうした「生活舞台」での営みを通じて社会に貢献し、生きがいを見い出していこうというのがINAXの企業理念の考え方であり、いきいきと働ける生活舞台を創りあげていくことが、社員一人ひとりのテーマです。

INAXは「住・生活」分野に携わる「企業市民」として、関連の文化・社会貢献活動を地道に続けています。こうした活動もまた「生活舞台」の重要な要素であり、文化度の高い企業を目指すINAXならではの取り組みです。

INAXという生活舞台づくり、生活舞台を通じた企業市民としての取り組みについて報告します。

休業休職制度

INAXでは、年次有給休暇と出産・結婚・忌引や個人の社会参加を支援するためのボランティア休暇などの特別休暇の他に、ライフステージに応じた育児休業や介護休業、ボランティア休職制度を制定しています。

育児休業制度

この制度の発足は、1990年2月です。休業期間は、産後休暇終了翌日から1年以内とするもので、休暇中は無給です。これまでに延べ435名が利用し、内356名が復職しています。復職時の職種・職場は、原則として休業前と同じですが、勤務環境や仕事内容などを勘案して配属されます。1993年には、3歳未満の子育てにあたる社員に、1日最大2時間までの就業時間短縮が認められる育児短時間勤務制度が制定され、毎年90名前後がスムーズな職場復帰のために、この制度を利用しています。2002年度の育児休暇取得者は74名（内男性1名）、育児短時間勤務利用者は83名で、平均短縮時間は、1時間42分です。

上司・同僚のフォロー・配慮に感謝しています。

営業情報企画部 提案情報課 橋本祐未子

1999年11月17日から1年間育児休暇を、復帰後から2002年9月21日まで、フルに育児短時間勤務制度を利用しました。復職後、職場を異動し仕事内容は変化しましたが、質に関しては以前と変わらず、やりがいのある業務を任され、忙しい時は昼食の時間も惜しいですが、業務自体には満足しています。また、子供の急な発熱時などには上司・同僚のフォロー・配慮に感謝しています。

しかしながら制度面では育児短時間勤務中の賞与算定方式や今後のキャリアパスを考える中で、まだまだ不十分な点もあると感じています。特に、育児休業期間については、保育園などの事情を考えると1歳過ぎた年度末まで活用できると今後の利用者にも歓迎されると思います。

介護休業制度

少子高齢化が加速する中、子育て支援は重要な課題ですが、それと同時に高齢介護問題も大きなテーマです。INAXでは事業としても、いつまでも暮らしやすいプラン提案や商品開発を進めていますが、社員が個人として向き合う介護諸問題の解決も必要です。社員としての資格を保持したまま、一定期間介護に専念できることを目的としたこの介護休業制度は、保存有給休暇取得完了翌日から2週間以上1年以内とし、その期間中は無給です。1992年7月発足以降、延べ36名が利用し、29名が復職、平均取得日数は129.4日で最長366日です。2002年度の利用者は2名です。

また、2002年4月より、1日最大2時間までの就業時間短縮が認められる介護短時間勤務制度も制定されました。

ボランティア休暇＆ボランティア活動

社会貢献、地域貢献活動に対し、1回あたり連続5日間以内、年間12日以内の有給の休暇が認められるもので、1992年に制定され、これまでに延べ146名が利用しています。この制度の利用者の主な活動目的は「児童福祉」「障害者福祉」「自然保護・環境保全」などで、その他に「自治会役員」「PTA役員」「スポーツ振興」「災害復興支援」など多岐に渡っています。

2002年度取得者は、5名ですが、休暇取得以外にも、休日や就業後に各事業所地域の社会貢献活動として清掃活動やリサイクル運動への参加などが報告されています。個人の年次有給休暇を活用してボランティアを行なう利用者も多いと推測され、企業として社員の社会参加支援に努めています。

また、休暇とは別に2ヶ月以上1年以内の取得が可能なボランティア休職制度（1992年10月制定）もあり、無給扱いですが、80%相当の援助金が支給されます。これまでの休職制度利用者は1名で期間は183日間です。

ボランティア休暇を利用して環境NPO※のワークに参加。

技術統括部 事業開発部 竹見太郎

環境NPOに登録し、年数回の里山保全ワークでボランティア休暇を利用しています。当初、有休で参加していましたが、ワーク内容と年間計画が読めるようになって休暇制度を活用しました。幸いNPO法人の活動だったので申請し易く弾みがつきました。内容や主宰が公的・明確で、かつ継続的活動でも原則2週間以上前に証明書面の準備が必要だからです。

利用すると年間休暇のゆとりは確かに拡がります。一方で市民活動は土日にかかる設定が多く、制度の有用性を考えると、活動がハードワークの場合、事後1日でも休養日に当てられると有り難いところです。また、無所属の方が、任意団体主宰の活動に参加するような時は、1日だけなら報告書提出で済ませ、まずは背中を押してくれるような制度運用があれば、もっと利用者は増えると思います。

※樹木・環境ネットワーク協会

人事制度

企業理念「INAX5」と「VISION2005」（2005年にありたい姿）に基づく経営戦略や部内戦略を実現するために、いつまでにどのような人材を育て、どう配置するかを明確にするとともに個人のキャリア開発の視点を取り入れた育成を図っています。

入社から退社までの人の流れに関する働き（機能）を大きくとらえると、「トル：採用」「ソダテル：指導・育成」「ミル：観察・評価」「イカス：配置・活用・異動」「ムクイル：処遇／昇格・ポスト・給料・福利厚生」「シリゾク：退職」の6つに分けられます。

INAXの人事制度も、左記の機能を効果的に運用できるよう、多くの制度で成り立っています。もちろん採用に際し、総合職は学校名不問・男女差別なしを方針としています。

資格制度

人事各制度運用の基本となる資格制度は、社員の意思を尊重しながら、期待する役割への適性と能力を見て、一人ひとりの社員の会社の中での位置決め（ポジショニング）をする制度です。INAXでは、この資格制度を各社員の適性・持ち味と職務遂行能力および期待する役割に応じた6つのコースによって構成する複線型の職能資格制度となっています。

昇格や職群転換（コース変更）の審査は、本人の成長意欲（能力向上・成果発揮）を刺激するとともに、チャレンジと自立（自律）の精神の喚起をねらいとしています。昇格・職群転換先の資格等級に応じて筆記試験、適性試験、論文、プレゼンテーションなど総合的な審査を実施します。

●資格制度

M群：経営戦略に基く組織運営や課題解決の役割を担う
S群：高度な専門性を発揮し経営へ寄与する役割を担う
E群：経験領域を中心とした優れた能力発揮を担う
G群：全国区で総合的あるいは専門的な役割を担う
T群：製造部門を中心に経験領域で中心的役割を担う
R群：地域限定で一般事務・技能の役割を担う

人事評価

人事評価は、一人ひとりの社員の仕事ぶりを、「結果（成果）」と「行動」とに区分して捉えます。「結果（成果）」は仕事を目標管理手法で進めることによって成果や業績への貢献度を半年ごとに評価(職務業績評価)し、「行動」は能力の向上度合いや発揮度合いを資格等級ごとの期待に照らし合わせて評価（人材能力評価）します。いずれの評価も事前に目標を設定することで意識や行動のベクトルを合わせ、業績の向上に結びつけることを狙いとしています。評価結果については全社員が上司部下による対話形式でのフィードバックを行ない、自分の状況を理解しながら今後の成長や成果発揮につなげています。

人材育成

職能資格制度に則り、役割・能力に応じた機会均等を方針としています。具体的には、①経営戦略に基づく教育としてビジネスリーダー早期育成システム、階層別教育、②部門戦略に基づく教育として機能別・部門別専門教育、③自立型人材育成としてキャリアプラン研修、個人別選択教育（選択研修、通信教育、eラーニング）等があります。基幹職層を中心に、2002年度の研修受講者は、延べ1,349名、受講率は24%です。

●職層別受講者構成

企業倫理を重んじ、真の企業市民として行動します

21世紀に求められる企業を目指して INAXトステムグループ行動指針を確実に実践しています。

近年、大企業の不正・不祥事が次々と明るみに出て、経営トップがその責任をとって退陣する事態が続いています。こうした企業に対する社会の目は厳しく、たとえ子会社や一個人の不正な行為であっても、企業グループ全体に対して不信感が高まり、企業イメージを低下させ、最終的には一流企業といえども永年築き上げてきた信用を一瞬にして失墜し、会社が消えてしまうという時代です。

INAXトステムグループは、法律や社会のルールを遵守する集団であること。法律違反などの反社会的行為が、会社の利益となることは決してあり得ないこと。個々の事業会社の反社会的行為が、その事業会社だけでなく、グループ全体に大きな影響を与えること。私たちINAX社員は、これらのことを常に肝に銘じて行動しています。

私たち一人ひとりが「INAXトステムグループ行動指針」を遵守すると共に、今一度、企業理念INAX5のX1（存在意義）、X3（経営姿勢）、X5（企業目標）を心に刻んで活動いたします。

常務取締役
経営管理統括部長
西 村 正 一

> 「**INAXトステムグループ行動指針**」
>
> **コンプライアンスの徹底と、健全でかつ倫理的な態度と行動の浸透を目的として、**
> **グループ構成員全てが遵守すべき具体的な行動指針（Guide Line）を規定することにより、**
> **グループの事業活動に対する社会の信頼を維持向上させます。**
>
> （2002年10月制定）

従来から、企業風土として社会正義を重んじ、社員を大切にしてきたINAXですが、2002年10月改めて、「INAXトステムグループ行動指針」の制定を受け、企業市民として責任ある行動を社内に再徹底しています。全てのINAX社員がこの指針の精神に則って日常業務を遂行できるようA4版と携帯用ポケットサイズの冊子を全社員に配布し、全部門で所属長による説明会を実施しました。また、より理解を深められるよう社内のイントラネットにQ&Aを掲載し、意識の向上を図っています。

この行動指針は、誠実で公正な取引の遂行や知的財産権の尊重、贈物授受の制限などの「**社外利害関係者への対応**」、インサイダー取引の禁止や人権の尊重などの「**個人的活動の責務**」「**会社保有財産の管理と保護**」「**会社保有情報の管理と保護**」の4項目からなり、INAXトステムグループに属するグループ各社の役員以下、正社員、パート、アルバイトを含めた業務に従事する全ての人を対象としています。

社員が行動指針に抵触する行為を行なった場合は所属長への報告義務が、また他の人の抵触事実を知った場合は、当人への忠告や状況に応じて所属長への報告義務があります。また、あってはならないことですが、職場環境により所属長への報告が難しい場合は、直接イントラネットを通じて匿名でINAX経営トップあるいはINAXトステム・ホールディングス経営トップ等へ報告できます。経営トップへの直接の報告やその他の手段による正しい報告に対して、社員が不利益を受けることはありません。グループ全体の主幹部署はINAXトステム・ホールディングスの監査グループが担います。

このシステムが確実に履行されるには、組織管理・監督者としての幹部社員及び役員の責任は重大です。全該当者は、行動指針の遵守と共に監督責任を引き受ける旨の誓約書に署名しており、この署名は毎年更新の形で実施し、その度に担当部署への行動指針の再徹底を図ることが義務づけられています。

就業状況と諸制度

INAXは社員が仕事を通して生きがいを見い出す「生活舞台」です。
社員構成や就業実態について報告し、各制度や活動を紹介します。

社員数と社員構成

2003年3月31日集計

INAXの正社員数は、男性社員3,923名、女性社員1,683名の計5,606名です。

在籍人数としては、上記正社員5,606名と嘱託・パートなどの契約社員102名を加えた5,708名です。

役員は18名※1で、それに準じた経営層は、52名（0.9%）です。また、正社員のうち4,764名（85%）は、INAX労働組合に加入しています。

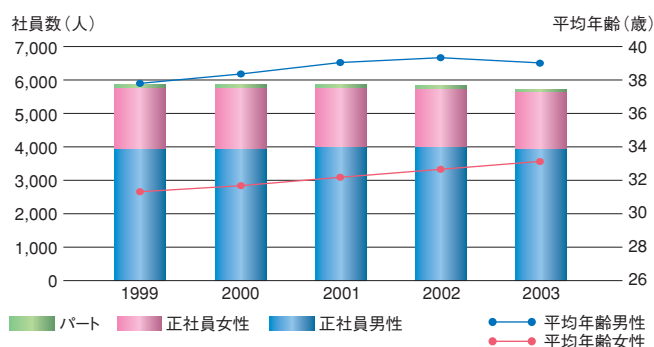
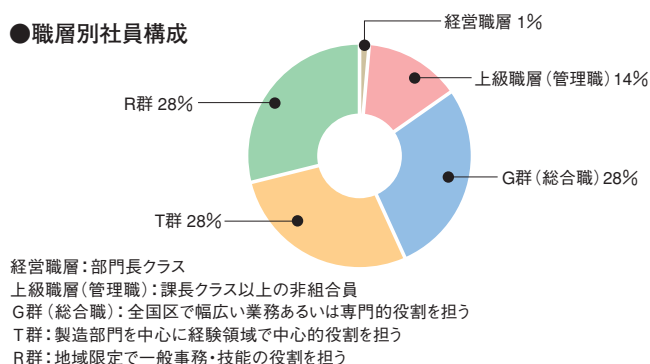
障害者雇用については、個々の状況を勘案した職場配属とし、障害者法定雇用率（1.8%）を遵守した112名※2（実人数:78名）を雇用しています。

海外の子会社・関連会社（中国5社、ベトナム、台湾、韓国、マレーシア、スペイン各1社計10社）の社員数は、1,852名（日本人出向者40名）です。関連情報⇒P.13

※1:役員は、取締役（16名）及び常勤監査役で、正社員に含みません。
※2:障害者数については、重度障害者は、1名を2名として計算しています。

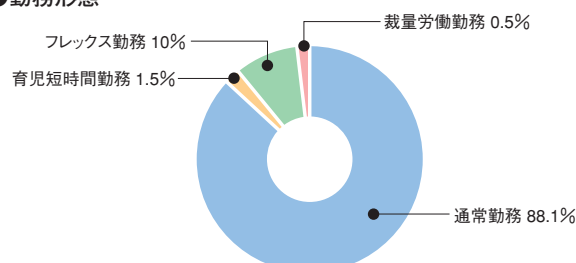
●在籍人数と平均年齢の推移

●職層別社員構成

経営職層：部門長クラス
上級職層（管理職）：課長クラス以上の非組合員
G群（総合職）：全国区で幅広い業務あるいは専門的役割を担う
T群：製造部門を中心に経験領域で中心的役割を担う
R群：地域限定で一般事務・技能の役割を担う

就業時間

年間所定労働時間は1,891時間で、この5年間変化はありません。2002年度の年間総実労働時間は、2,000.8時間で、一人あたりの月間平均14.7時間の残業が発生しています。

一方、有給休暇の取得日数は、一人あたり年間平均6.7日です。

●勤務形態

常滑工場閉鎖報告

2003年3月末で常滑工場が66年の歴史に幕を閉じることになりました。昭和12年6月操業開始以来、長年にわたり基幹工場としてINAXを支えてきた工場です。常に高品質の内装タイルの生産を続け、斬新なデザインや美しい色彩で浴室をはじめとする水まわりを彩ってきました。

社内的には、生産拠点の集約による生産効率の向上の必要性から、また社外的には、工場敷地が2005年中部国際空港完成に向けた空港線のルートにあたることから、今回の閉鎖に至りました。生産拠点の再配置により上野工場に内装タイルラインを集約し、無理無駄のない効率的な生産体制を築いています。

技術者はじめINAXの貴重な人材は、知多地区の住設系工場や物流・スタッフ部門などに異動し、新しい職場で活躍を開始しています。そして高い製造技術は、海外の技術支援にも役立っています。

工場は閉鎖されますが、常滑工場で培われた技術力や知恵、タイル製造にかける誇りと心意気は脈々と受け継がれています。

休業休職制度

INAXでは、年次有給休暇と出産・結婚・忌引や個人の社会参加を支援するためのボランティア休暇などの特別休暇の他に、ライフステージに応じた育児休業や介護休業、ボランティア休職制度を制定しています。

育児休業制度

この制度の発足は、1990年2月です。休業期間は、産後休暇終了翌日から1年以内とするもので、休暇中は無給です。これまでに延べ435名が利用し、内356名が復職しています。復職時の職種・職場は、原則として休業前と同じですが、勤務環境や仕事内容などを勘案して配属されます。1993年には、3歳未満の子育てにあたる社員に、1日最大2時間までの就業時間短縮が認められる育児短時間勤務制度が制定され、毎年90名前後がスムーズな職場復帰のために、この制度を利用しています。2002年度の育児休暇取得者は74名（内男性1名）、育児短時間勤務利用者は83名で、平均短縮時間は、1時間42分です。

上司・同僚のフォロー・配慮に感謝しています。

営業情報企画部 提案情報課　橋本祐未子

1999年11月17日から1年間育児休暇を、復帰後から2002年9月21日まで、フルに育児短時間勤務制度を利用しました。復職後、職場を異動し仕事内容は変化しましたが、質に関しては以前と変わらず、やりがいのある業務を任され、忙しい時は昼食の時間も惜しいですが、業務自体には満足しています。また、子供の急な発熱時などには上司・同僚のフォロー・配慮に感謝しています。

しかしながら制度面では育児短時間勤務中の賞与算定方式や今後のキャリアパスを考える中で、まだまだ不十分な点もあると感じています。特に、育児休業期間については、保育園などの事情を考えると1歳過ぎた年度末まで活用できると今後の利用者にも歓迎されると思います。

介護休業制度

少子高齢化が加速する中、子育て支援は重要な課題ですが、それと同時に高齢介護問題も大きなテーマです。INAXでは事業としても、いつまでも暮らしやすいプラン提案や商品開発を進めていますが、社員が個人として向き合う介護諸問題の解決も必要です。社員としての資格を保持したまま、一定期間介護に専念できることを目的としたこの介護休業制度は、保存有給休暇取得完了翌日から2週間以上1年以内とし、その期間中は無給です。1992年7月発足以降、延べ36名が利用し、29名が復職、平均取得日数は129.4日で最長366日です。2002年度の利用者は2名です。

また、2002年4月より、1日最大2時間までの就業時間短縮が認められる介護短時間勤務制度も制定されました。

ボランティア休暇&ボランティア活動

社会貢献、地域貢献活動に対し、1回あたり連続5日間以内、年間12日以内の有給の休暇が認められるもので、1992年に制定され、これまでに延べ146名が利用しています。この制度の利用者の主な活動目的は「児童福祉」「障害者福祉」「自然保護・環境保全」などで、その他に「自治会役員」「PTA役員」「スポーツ振興」「災害復興支援」など多岐に渡っています。

2002年度取得者は、5名ですが、休暇取得以外にも、休日や就業後に各事業所地域の社会貢献活動として清掃活動やリサイクル運動への参加などが報告されています。個人の年次有給休暇を活用してボランティアを行なう利用者も多いと推測され、企業として社員の社会参加支援に努めています。

また、休暇とは別に2ヶ月以上1年以内の取得が可能なボランティア休職制度（1992年10月制定）もあり、無給扱いですが、80%相当の援助金が支給されます。これまでの休職制度利用者は1名で期間は183日間です。

ボランティア休暇を利用して環境NPO※のワークに参加。

技術統括部 事業開発部　竹見太郎

環境NPOに登録し、年数回の里山保全ワークでボランティア休暇を利用しています。当初、有休で参加していましたが、ワーク内容と年間計画が読めるようになって休暇制度を活用しました。幸いNPO法人の活動だったので申請し易く弾みがつきました。内容や主宰が公的・明確で、かつ継続的活動でも原則2週間以上前に証明書面の準備が必要だからです。

利用すると年間休暇のゆとりは確かに拡がります。一方で市民活動は土日にかかる設定が多く、制度の有用性を考えると、活動がハードワークの場合、事後1日でも休養日に当てられると有り難いところです。また、無所属の方が、任意団体主宰の活動に参加するような時は、1日だけなら報告書提出で済ませ、まずは背中を押してくれるような制度運用があれば、もっと利用者は増えると思います。

※樹木・環境ネットワーク協会

人事制度

企業理念「INAX5」と「VISION2005」（2005年にありたい姿）に基づく経営戦略や部内戦略を実現するために、いつまでにどのような人材を育て、どう配置するかを明確にするとともに個人のキャリア開発の視点を取り入れた育成を図っています。

入社から退社までの人の流れに関する働き（機能）を大きくとらえると、「トル：採用」「ソダテル：指導・育成」「ミル：観察・評価」「イカス：配置・活用・異動」「ムクイル：処遇／昇格・ポスト・給料・福利厚生」「シリゾク：退職」の6つに分けられます。

INAXの人事制度も、左記の機能を効果的に運用できるよう、多くの制度で成り立っています。もちろん採用に際し、総合職は学校名不問・男女差別なしを方針としています。

資格制度

人事各制度運用の基本となる資格制度は、社員の意思を尊重しながら、期待する役割への適性と能力を見て、一人ひとりの社員の会社の中での位置決め（ポジショニング）をする制度です。INAXでは、この資格制度を各社員の適性・持ち味と職務遂行能力および期待する役割に応じた6つのコースによって構成する複線型の職能資格制度となっています。

昇格や職群転換（コース変更）の審査は、本人の成長意欲（能力向上・成果発揮）を刺激するとともに、チャレンジと自立（自律）の精神の喚起をねらいとしています。昇格・職群転換先の資格等級に応じて筆記試験、適性試験、論文、プレゼンテーションなど総合的な審査を実施します。

●資格制度

人事評価

人事評価は、一人ひとりの社員の仕事ぶりを、「結果（成果）」と「行動」とに区分して捉えます。「結果（成果）」は仕事を目標管理手法で進めることによって成果や業績への貢献度を半年ごとに評価(職務業績評価)し、「行動」は能力の向上度合いや発揮度合いを資格等級ごとの期待に照らし合わせて評価（人材能力評価）します。いずれの評価も事前に目標を設定することで意識や行動のベクトルを合わせ、業績の向上に結びつけることを狙いとしています。評価結果については全社員が上司部下による対話形式でのフィードバックを行ない、自分の状況を理解しながら今後の成長や成果発揮につなげています。

人材育成

職能資格制度に則り、役割・能力に応じた機会均等を方針としています。具体的には、①経営戦略に基づく教育としてビジネスリーダー早期育成システム、階層別教育、②部門戦略に基づく教育として機能別・部門別専門教育、③自立型人材育成としてキャリアプラン研修、個人別選択教育（選択研修、通信教育、eラーニング）等があります。基幹職層を中心に、2002年度の研修受講者は、延べ1,349名、受講率は24%です。

●職層別受講者構成

労働安全衛生

**INAXは、「人が大切にされる職場風土づくりと、安全で快適な職場環境の実現をめざして
各階層において積極的な安全衛生活動を実践する」ことを理念として安全衛生活動の取り組みを行なっています。**

労働災害発生状況

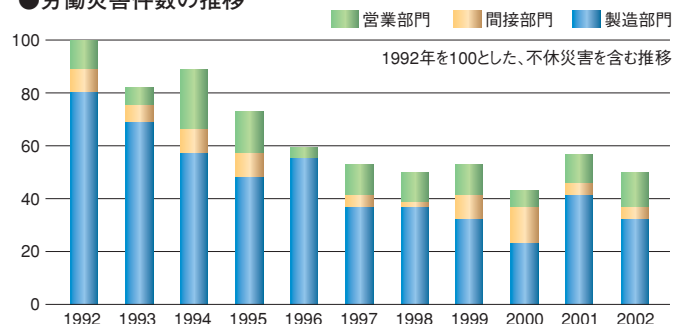
ここ数年労働災害は減少傾向にあるものの、依然として過去に発生した類似災害が多く発生しています。こうした中で従来から取り組んできた災害が発生する都度、安全対策の見直しを行なう「災害発生処理型」から、リスクアセスメントの考え方を取り入れて、全国的に展開されている労働安全衛生マネジメントシステムの構築・運用を推進し「問題発見先取型」への活動を実施してきました。

●労働災害（2002年）

休業災害…2件（うち1件は交通事故）　不休災害…13件

災害件数は前年と比べ減少しているものの数年前から発生件数は横ばい傾向です。災害の発生内容を見ると従来の災害は、設備に起因する災害が多く発生していましたが、2002年は大幅に減少しました。これは現在取り組みを行なっているヒヤリ・ハット、キガカリの洗い出し及び対策、リスクアセスメントの取り組みなどを行なうことによって安全に対する感性が少しずつ向上してきた成果と考えられます。

しかしながら、被災者本人の不安全行動による災害が増加しており、ヒヤリ・ハット、キガカリ運動をさらに展開し災害件数削減につなげます。また業務中の車を運転しての交通事故も多く発生しています。交通事故防止のために、過去に発生した事故の事例を基にKY（危険予知）シートを作成し、朝礼や車を運転する時に確認し、活用しています。

●労働災害件数の推移

定期健康管理

社員の健康管理のため、数々の制度が設けられています。

制　　度	内　　容
健康管理室の設置	全国に5ヵ所（東京・大阪・知多・上野・常滑/本社）あり、産業医・保健師が各健康管理室にそれぞれ1～2名ずつ配置されています。
定期健康診断事後措置の実施	定期健康診断の結果に基づき、産業医が管理区分付けを行ない、メール・文書・面談等で保健師による保健指導がなされます。
特殊健康診断の実施	粉じん・有機溶剤・特定化学物質等の特殊健康診断を各工場で行なっています。
傷病休業者の支援	30日以上の休業者に対して、産業医による復職健診を実施しています。
健康教育の実施	新入社員・上級職昇格者・労働組合委員を対象にメンタルヘルスを中心とした教育を実施しています。 また、45歳、55歳、定年退職者を対象に生活面全般の教育を実施しています。
健康情報の提供	社内誌『あいえす』（随時）、健康管理室発信の『安全衛生かわら版「ほっだより」』（毎月）、 安全衛生委員会資料等により、健康情報を提供しています。
健康相談の実施	面談・メール・電話等により社員の健康相談に対応しています。
健康保持増進活動の実施	禁煙希望者への支援や「INAX禁煙コンテスト」の実施、 イントラネットでのストレスチェック等を行なっています。

イントラネット

安全衛生かわら版

メンタルヘルスケア（心の相談窓口）

誰もが安心して心の悩みを相談できるよう社外に「心の相談窓口」を設けています。プライバシー第一の仕組みをつくり、必要に応じてさらに相談機関を紹介しています。この外部相談機関には定期的に社内の動きを伝えて相談者の背景についての理解を深められるよう配慮するとともに、全体的傾向を測って職場環境改善にも活かしています。

イントラネット

利用対象	INAX社員および一部を除く関連会社とその家族
相談体制 （外部相談機関を利用）	カウンセラー（臨床心理士、産業カウンセラー）による電話相談 月～金の16時から20時
	精神科医によるメール相談 随時（24時間以内に返信）、必要時にはカウンセリング5回まで会社負担
相談内容	職場内の問題、部下のマネージメントの問題、 個人的問題および家族の問題など

保健師の声

2002年11月より子会社へ利用拡大し、電話相談の日程が増えました。それに伴い相談件数が増えており、利用拡大して良かったのでは、という声もあがっています。相談内容については、個人の問題だけでなく家族も利用でき、また、部下のマネージメントについても相談できます。今後もこころの相談はメンタル対応のひとつの手段として、必要時に上手く活用していただければと思います。

東京健康管理室
保健師
森重美奈子

工場&オフィスの施設内環境

工場・オフィスの施設内環境として、社内分煙対策、VDT（Visual Display Terminals）作業基準、粉じん対策といった安全衛生管理が行なわれています。

●社内分煙

2002年5月に「INAX分煙基準」を制定しました。この分煙基準を受け、製造・スタッフ部門では、それまで喫煙場所だった102ヵ所が禁煙となりました。また、分煙対策完了箇所は187ヵ所の喫煙場所のうち106ヵ所で約57%、営業部門での分煙対策完了箇所は73ヵ所の喫煙場所のうち32ヵ所で約44%となっています。

●VDT

厚生労働省の新ガイドラインに基づき、社内VDT基準を2002年10月に改定しました。

●粉じん

法定粉じん作業環境測定結果は、13工場91作業所すべてが第1管理区分を達成しています。

取り組み事例

分煙化への取り組み…名古屋支社

名古屋支社では以前から分煙を求める声が大きかったことから、2002年4月に喫煙室が設置されました。これによって喫煙室以外の場所がすべて禁煙となり、同時に会議中の喫煙も禁止になりました。

その後の反応としては「喫煙者にとっては不便だ」という声がある一方、「職場での受動喫煙がなくなった」「会議後、吸殻でいっぱいになった灰皿の片付けをしなくて済むようになった」などの喜びの声も大きいものがあります。けっして喫煙率が低いとはいえない名古屋支社で分煙化がいちはやく進んだ背景には、各社員の分煙化に対する意識の高さがあったと言えます。

文化・社会貢献活動

INAXは企業市民として文化度の高い企業活動を目指し、文化的・社会的な充実を図ることが社会貢献としても重要な課題と位置付けています。特に文化活動については、1981年のギャラリー開設の時から、独自に「D」・独創的に「D」・継続する「K」ことを基本とした「2DKの文化活動」を続け、1991年第1回メセナ大賞特別賞を、2001年12月には同、企業文化賞を受賞するなど社会的評価をいただいています。
「2DK」は、こじんまりとしたイメージですが、INAXに相応しいフレーズとして根をおろしています。

ギャラリー・出版・書店活動

inax.co.jp/Culture/

●ギャラリー

建築・デザインに限らず民俗などさまざまな分野を独自の視点で切り取った企画展を続けています。

写真は土と泥の無限の可能性を見つめなおそうと試みた「土泥礼讃」展の模様です(2002年9月〜2003年5月迄、東京・大阪・名古屋のギャラリーを巡回)。

会期中には無料の講演会も開催されました。

●出版

1982年からギャラリー展覧会図録でもあるBOOKLETシリーズ、1994年からは建築・都市論を中心とした10+1シリーズなどの書籍を積極的に刊行しています。総点数は200点を超えています。

2002年3月には、既存の建築がいかに有効に再利用されているかを考察した「リノベーション・スタディーズ」を刊行しました。

●ブックギャラリー

1988年よりオープンしているINAXの直営書店。美術・建築・デザインを中心に人々の暮らしや博物学など、棚揃えが個性的です。階上にあるギャラリー1の企画展にあわせ、会期中には関連書を集めたブックフェアも開催しています。

文化財継承支援

1992年ボランティア休暇規定、1995年ボランティア休職規定(前述P.20)を制定するとともに社会貢献推進室を設置しました。それらを契機に、個人としての様々な社会貢献活動を企業として支援していますが、その他にも、INAXの技術を使ったINAXならではの文化貢献活動も行なっています。

●半田市の旧家「半六邸」への寄贈

半田市内の市民グループ「半六倶楽部」が進めている半六邸の修復作業の呼びかけに、地元の商店などが「武家屋敷の玄関に使われた戸障子」や「御影石」を寄贈しました。

便器類についてはINAXに改修相談があり、市民支援活動の一環として大便器・小便器・洗面器を実験工房で、特注生産対応し、寄贈しました。

INAX文化スクエア

inax.co.jp/bunka/

INAX文化スクエアは、大正時代からの歴史を有するINAX発祥の地にあります。1986年「窯のある広場・資料館」開設以降、「世界のタイル博物館」や新しい街の景観作りを提案する「トイレパーク（1988年）」、やきものを楽しむ遊び場「陶楽（とうがく）工房（1999年）」をスクエア内に開設。各施設では「見る」「知る」「創る」を通して、やきものの素晴らしさや歴史を実感いただけます。1997年度「愛知まちなみ建築賞」受賞、2002年「第17回公共の色彩賞－環境色彩10選」に選ばれました。

タイルのルーツを探る旅から始まった膨大なコレクションー「世界のタイル博物館」

「世界のタイル博物館」は、タイル研究家の故山本正之氏が、1991年に常滑市へ約6,000点のタイルを寄贈されたことから始まりました。INAXは、常滑市からその管理・研究と一般公開の委託を受け、INAX文化スクエアの核として、博物館を建設し、1997年4月に開館しました。

この博物館は、山本氏が50年余りにわたって世界各国を訪問、約25ヶ国で収集したタイルを中心に展示し、来館者が「タイルはどのようにして生まれ、どんな場所を飾り、どんな経路で広がり発展してきたか」を観て・学んで・発見する、日本で初めての研究博物館です。土や釉薬の美しさ、さまざまなデザインや技術などタイルのすべての情報発信基地となり、タイル研究・発展に寄与できればと考えています。

収蔵展示されている古い時代のタイルは、「壁を飾る・床を飾る」ものとして非常に味わい深く、装飾性豊かです。

土と炎の結晶ー「窯のある広場・資料館」（1997年登録有形文化財に指定）

「窯のある広場・資料館」のメインは、当時のたたずまいを残し、釉薬の染み込んだ独特の雰囲気を醸しだす「窯」とれんが積みの「角型煙突（高さ21m）」です。間口5.5m、奥行11m、高さ3.4mのこの窯では、1921年（大正10年）から1971年（昭和46年）まで主に土管が焼かれていました。

資料館では窯のほか、明治から昭和初期にかけてビル外壁を飾ったテラコッタや、明治から大正・昭和に作られた古便器を展示しています。

現存では最古の1909年（明治42年）頃の京都図書館（府立）のテラコッタをはじめ、帝国ホテル（1915年[大正4]〜1921年［大正10］F・L・ライト設計）のスダレタイルやテラコッタ、昭和初期の総理大臣官邸庭園灯テラコッタ、旧警視庁外壁などの展示は、明治・大正期の常滑の窯業が建築陶器に先進的に取り組んでいたことを伺わせます。

また、瀬戸でつくられた染付花鳥文の大小便器や尿瓶なども展示しています。素材は陶器質ですが、美しい釉薬に彩られており、釉面の貫入による汚れをものともせず、厠の世界に風流を持ち込んだ一時代の高価な遺産といえます。

●文化スクエアイベント

タイル博物館では、陶芸作家による「やきもの新感覚シリーズ」を月例開催しています。また、エントランスホールでのシンポジウム開催や、窯のある広場・資料館の「窯」で、バイオリンやリュートなどのミニコンサートも開催しています。演奏者からは窯内の雰囲気はもちろん、音響効果についても高く評価いただいています。

タイル博物館	月例企画展示 〈やきもの新感覚シリーズ〉	第27回今田陽子展（2002年3月10日〜4月6日）から 第36回今井裕子展（2003年3月11日〜4月6日）全10回
	館特別展	地球の贈りもの　身近な土を見つめる 2002年11月3日〜2003年1月31日
	技術展示 〈技術と歴史展〉	「日本のタイルのルーツ〜瓦と敷瓦」（2002年4月〜12月） 「本業敷瓦」2003年1月4日〜6月30日
	コンサート・演奏会	ムジカセラミカ（セラミック楽器）演奏会（2002年12月8日） 佐藤豊彦ニューイヤーコンサート（2003年1月18日）
	シンポジウム	「常滑をアーティストの住む街に」2003年1月25日、2月22日 パネラー:鯉江良二、井上隆生、八木咲代、吉川千香子、杉江淳平、浜田剛爾、吉川正道、宋聖熙
窯のある広場・資料館	コンサート・イベント	横澤和也の石笛コンサート（2002年5月18日） 森本千絵ヴァイオリンコンサート（2002年10月19日） 三遊亭金時落語独演会（2003年3月14日）

実験工房　アーティストコラボレーション　固有技術の提供と新しい表現への進化

実験工房では、INAXの培ってきたセラミック技術と、セラミックアーティストの感性・表現技術の融合による新しい表現や生産技術の進化を目指して活動しています。

1989年から10年に渡り、ヨーロッパのアーティストを対象にしたコンテスト「INAXデザインプライズ／IDP」を開催し、入賞者を招いて、実験工房で作品制作の支援を行ないました。

2001年からは、国内アーティストを対象に「未来陶房」を実施しています。この実験は、アーティストのそれまでの制作の範囲や手法にとらわれず新しい試みに挑戦することで、相互に発見や発想を誘発し、新たな表現技術を得ることを目的にしています。第1回池田晶一氏（1999年8月～2000年1月）以降、黒河兼吉氏（2002年5月～8月）、金正延氏（2002年9月）、中里隆氏（2003年1月）、定兼恵子氏（2003年2月）との協創を実現しています。

2002年1～4月には、第5回IDP受賞者ドロシー・フェイブルマンさんの制作支援を行ない、透光性タイルという研究開発素材を活かした繊細な作品が「第6回国際陶磁器展 美濃」で金賞を受賞しました。

中里隆氏 公開ワークショップ

中里隆氏 制作風景

金正延氏 制作風景

「堅実」と「チャレンジ精神」で『よい会社』を目指す

INAX労働組合は約5,000人の組合員で構成され、『INAX（会社）もそこで働く私たち（組合員）も共に繁栄していこう!』という考え方を基本として活動しています。厳しい経済環境・事業環境が続く中ではありますが、組合員の働く活力が湧いてくるような活動を目指して日々奮闘しています。社員から見たINAXを一言でいうと、“堅実”と“チャレンジ精神”のバランスが程よくとれた会社ではないかと思います。INAXの財務内容はその堅実さの一部を雄弁に物語っており、賃上げ交渉でも鉄壁のガードをなかなか崩そうとはしません。その反面、若い社員に大きな仕事を任せるなど失敗を恐れない社風も併せ持っています。“堅実”は私たちがINAXで安心して仕事に打ち込むことができる素地を作り出し、“チャレンジ精神”はやりがいを持って仕事を進めることができる風土を生み出しています。トステムグループとの融合の中でINAXも徐々に変わりつつありますが、この良き社風はいつまでも磨きをかけていくべきだと考えています。

労働組合委員長
五 味 達 彦

INAXは環境問題や安全衛生にも非常に積極的に取り組んでいます。安全衛生に関しては、最近、社会問題になっているメンタルヘルスについても世間に先駆けて社外に心の相談窓口を設置するなど先進的な取り組みをしていますし、セラミックス業界につきものの粉塵障害（じん肺）に対しても障害者を出さぬよう徹底した対策をしています。ただ、INAXの“堅実”な社風とあいまって世間の認知度という部分に関して多少のジレンマがあるというのが正直なところです。

各論的には多少のずれもありますが、『INAXをよい会社にしていきたい』というのが労使の共通認識であると思います。私たち労働組合も『よい会社』を目指してこれからも活動を続けてまいります。

INAXの地球環境問題への取り組み

環境活動の報告

地球環境という広い視野で、21世紀という長い時間を
見つめながら、私たちはできることからはじめています。
"Think Globally, Act Locally"

21世紀、社会から求められる企業であるためには、地球環境問題への取り組みは不可欠です。
INAXは、循環型社会の構築が、人類にとって最も重要な課題であると認識し、「人と地球を考えた環境美の創造と提供」を追求しています。
企業活動を通じて創り出すさまざまな価値を高めながら、地球環境への負荷をできる限り減らしていく。第1次、第2次の環境活動を経て、第3次環境宣言では、「全ての部門での環境マネジメントシステムの展開」と「循環型企業への進化」を目標に掲げ推進しています。循環型企業としての思想を深く社内外に浸透させ、企業市民として、未来世代を見据えた活動を続けています。こうした地球環境問題への取り組みが、持続可能な社会の構築に繋がっていくと考えます。
本章では、INAXの第3次環境宣言の進捗を中心に報告します。

真の循環型企業への進化を目指して

INAXの環境戦略の原点は自己矛盾の無い環境思想にあります。たくさんの議論の末に生まれた「人と地球を考えたものづくり」の考え方を通して「環境美の創造と提供」を行なうことが、INAXのコーポレイトシチズンたる所以であるという考えです。

第3次環境宣言はグループ全体で環境経営の推進を目指す「環境マネジメントシステムの構築」と、つくる・つかう・もどすを意識した「循環型企業への進化」の2本の柱から成り立っています。

前者では、INAXの企業活動に関わる全ての方々としっかりしたパートナーシップを構築し、後者では、本来の企業活動が循環をベースとしたものにシフトすることにより、企業活動を環境を基盤とする体質に変え、真に社会から求められる企業に進化することを目的としています。

本年度は、第3次環境宣言最終年にあたり、その総括の年でもあります。環境宣言終了まであと残り6ヶ月（2003年3月末現在）となりました。残された時間で、まだ十分達成されていない部分を補完し、さらに新しい次のステップに進んでいきます。

取締役技術統括部長
環境戦略委員会委員長
石 田 秀 輝

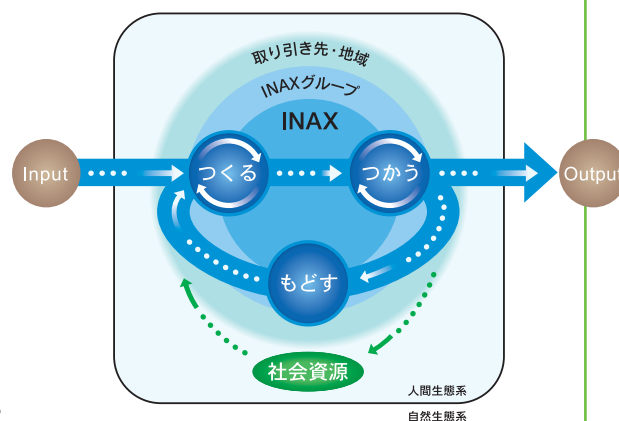
第3次環境宣言　INAXは環境配慮型企業から循環型企業に進化します。

2001年1月1日〜
2003年9月30日

1. 環境マネジメントシステム（EMS）をすべての部門、グループ全体へ展開します。

INAX本体の環境経営要素は整いつつありますが、これをさらに展開し、グループ全体での環境経営を推進します。

①本社でISO14001を認証取得し、さらに営業・研究開発・サポート部門でINAX環境アクションプログラム（EIAP／アイアップ）を導入します。
②子会社・関連会社・海外事業所でISO14001、EIAPを導入します。
③仕入先、販売先など取り引き先との環境パートナーシップを構築します。
④地域との環境連携を強化します。
⑤環境汚染、化学物質排出管理などの環境リスク管理を強化推進します。
⑥企業活動における地球環境負荷を総合的に捉える新しい環境経営指標を開発・導入します。

取り引き先・地域
INAXグループ
INAX
Input
つくる
つかう
Output
もどす
社会資源
人間生態系
自然生態系

2. 「つくる」「つかう」「もどす」を意識した循環型企業に進化します。

開発・設計／生産／物流／販売／施工／使用／メンテナンス／回収／再生といった一連の企業活動での地球環境負荷低減を進めるため、循環・脱物質化を強く意識したものづくりを推進します。

①循環を意識した（寿命、再生、メンテナンス、安全）商品開発システム―ライフサイクルデザイン（LCD）システム―を強化推進します。
②社会資源である自社・他社副産物、公共廃材（素材・部品）を積極利用した新しいものづくりを進めます。
③商品の信頼性や長寿命化を推進するサービスの提供を拡大します。
④寿命商品の回収、再資源化システムの構築を進めます。
⑤自然のエネルギーや資源を有効利用しながら、地球への負荷を軽減し快適性を確保できる低環境負荷・高パフォーマンス商品の開発を進めます。

環境基本方針

環境基本理念

INAXは、循環型社会の構築が人類にとって最も重要な課題であることを認識し、
「人と地球を考えた環境美の創造と提供」を企業活動に関わるあらゆる場面で
追求することにより、真の企業市民(コーポレイトシチズン)を目指します。

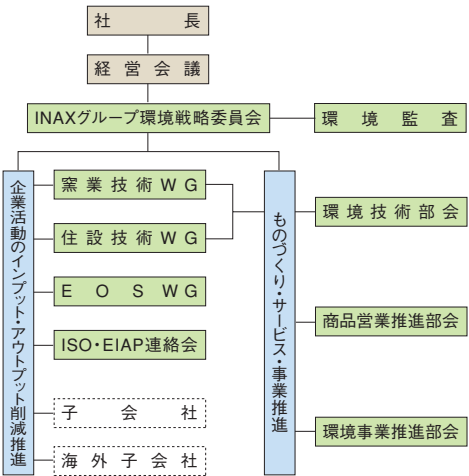
(1997年5月21日制定)

人と地球を考えたものづくり・企業活動

企業活動を通して創り出される価値(PERFORMANCE)を高め、
地球環境への負荷(INPUTとOUTPUT)を減らすことです。

P:PERFORMANCE/商品・サービス、顧客満足度などに代表される企業活動を通して創り出されるものの価値、効果
I:INPUT/企業活動および、商品・サービスのライフサイクル全般で投入される資源、エネルギーなど
O:OUTPUT/企業活動および、商品・サービスのライフサイクル全般で排出される廃棄物、排ガス、排水など

環境マネジメント推進体制

INAXグループ環境戦略委員会は、環境担当役員(技術統括部長)を委員長に、事業本部長、営業本部長、マーケティング企画部長、経営企画部長、各部会長、各ワーキング(WG)リーダーで構成されています。
部会は各ワーキングリーダーで組織され、それぞれのワーキングは、各課題の直接推進部門のメンバーで編成されています。

行動指針

1. 開発・設計の段階で人への新しい価値と地球に対する環境負荷を評価し、人と地球を考えた商品開発と低環境負荷技術の開発に努めます。
2. 生産・販売・物流・メンテナンス・回収・廃棄のすべての段階で環境負荷低減のための技術やシステムの開発・構築・導入に努め、これを運用いたします。
3. 法令・条例・協定などの規定を遵守することはもちろん、自主管理基準を設定し環境管理レベルの向上に努めます。
4. 担当役員を頂点とした組織・運営システムを整備し、管理・監査・教育に関わる責任の所在を明確にするとともに常にその内容の向上をはかります。
5. 地球規模の視野に立った環境負荷低減活動を通じて、また、開発された負荷低減技術・システムを積極的に公開し、社会に貢献します。

(1997年5月21日制定、2001年1月1日改定)

第3次環境宣言　2002年の進捗一覧（2002年4月～2003年3月）

1.環境マネジメントシステム（EMS）をすべての部門、グループ全体へ展開します。

本社部門はじめ国内外子会社まで、INAXグループの環境マネジメントシステム（EMS）の推進体制は整いました。
これからは、プラン-ドゥ-チェック-アクション（PDCA）を確実に行ない、システムとしての実効性を高めていきます。
社外への働きかけでは、INAXと生活者との間の特約店をはじめとする中間ユーザーの方々との環境パートナーシップ構築が課題です。
環境経営に取り組みを始めていただく業務支援プログラムの提案をはじめ、環境経営への理解を深め行動していただくよう努めていきます。

行動項目	2003年9月末までの具体的目標項目	対象部門	自社評価
①INAX本体の環境マネジメントシステムの展開・強化	本社ビルサイトISO14001を認証取得 ＊2001年6月ISO14001認証取得	経営企画部、購買センターなど本社15部門	
	営業部門がINAX版EMS（EOS／イオス）導入 ※EOS⇒P.39参照	東京本部および営業本部と全11支社 （営業所は支社に含む）	
	スタッフ部門がINAX版EMS（EIAP／アイアップ）導入 ※EIAP⇒P.39参照	物流部、情報システム棟、空間技術研究所ビル、アクア事業部久米、協力工場部、建材技術研究所の全6サイト	
	生産部門のEMS継続 ＊2000年ISO14001認証取得完了 ＊2000年廃棄物ゼロ達成・継続中	常滑東工場、榎戸工場、大谷工場、知多工場、半田工場、久米工場、伊賀工場、上野緑工場、上野工場、青山工場、江別工場、土浦工場、筑波工場、尾道工場の全14生産事業所 ㈱東濃INAX、㈱九州INAXの2生産系子会社	
②子会社・関連会社・海外事業所の環境マネジメントシステム導入	海外を含む生産系子会社（連結対象）でISO14001認証取得	国内： ㈱アーストン、伊奈精機㈱、日本陶業㈱	
		海外： VINAX、蘇州伊奈建材有限公司、蘇州伊奈衛生潔具有限公司、台湾INAX	
	非生産系子会社（連結対象）でINAX版EMS導入	高橋伊奈販売㈱、祖父江工業㈱、㈱マルニシ	
③仕入先・販売先など取引先との環境パートナーシップ構築	仕入先とのパートナーシップ構築	購買センター	
	販売先とのパートナーシップ構築	営業本部、特約店	
④地域との環境連携を強化	全社連携活動強化	全社	
⑤環境リスク管理の強化推進	遵法維持と全社規定の改正	全社	
	化学物質全社管理の推進	全生産事業所	
⑥環境経営指標の確立	新環境経営指標の開発	環境推進室	

2002年目標達成度： 達成 もう少し 未達成

成果・進捗と今後の課題
エコスタッフ活動（スタッフ部門のミッションに照らし合わせた環境への取り組み）を開始しました。2002年6月にISO14001第1回サーベイランスを終了。 ⇒P.40参照
2002年4月東京本部を含む全12サイトがEOS社内認証完了。2002年12月～2003年1月社内養成講座を3回実施、内部監査員44名を養成しました。また2002年11月には、営業部門支社共通の施策・検討・推進のためワーキンググループを立ち上げ、各サイトが内部監査を2003年8月までに完了予定です。 ⇒P.40参照
全サイトが2002年12月に第1回サーベイランスを終了。環境マネジメントシステムの継続的改善に努めています。 ⇒P.40参照
環境リスク管理面の強化、負荷低減活動の継続に努めており、埋立廃棄物ゼロを継続中です。2002年度は各工場でサーベイランスを1～2回実施し、また、常滑東工場、尾道工場、東濃INAXが初回登録から3年経過時の更新審査を受審し、登録を更新しています。2003年度には13工場が更新審査受審を予定しています。 ⇒P.41参照
2000年12月にアーストンが、2002年5月に伊奈精機がISO14001を認証取得しました。日本陶業は本審査第1次ステージ審査完了しており、2003年4月に取得することで、国内の全連結生産系子会社がISO14001認証の取得を完了する予定です。日本陶業は2002年3月より、アーストンは2002年5月より埋立て廃棄ゼロを達成しました。
VINAX、蘇州伊奈建材有限公司がISO14001を認証取得しました。2003年9月までに蘇州伊奈衛生潔具有限公司、台湾INAXが取得する予定です。 2003年1月に稼動開始した蘇州伊奈陶瓷有限公司は環境取り組み体制の整備を開始しました。VINAX、蘇州伊奈建材有限公司、蘇州伊奈衛生潔具有限公司、台湾INAXでは土地の履歴や汚染物質使用履歴の調査等の土壌汚染調査を開始しました。 INPUT・OUTPUT削減を確実に進めるため、過去15ケ月分のデータを基に目標値を策定し、2003年1月よりデータ管理の運営を開始しました。
INAX版環境マネジメントシステム（EIAP）の導入準備を完了し、2003年9月までに社内審査を完了する予定です。
第2回グリーンパートナーシップセミナーの開催。仕入先の環境への取り組みを評価するエコ度調査を継続実施。評価の低い仕入先は個別にフォローしています。 有害化学物質の使用・含有の禁止・削減ランクを策定し、仕入れ商品・部品に含有する、もしくは生産工程での使用状況の調査を開始。今後も継続してパートナーシップ強化策を推進中。
販売先である特約店の経営を支援するためのプログラム（業務改善プログラム）に環境経営要素を付加した統合プログラムの導入を検討中。今後はプログラム導入特約店に対してその運用を介した環境マネジメントシステムの浸透を図り、環境パートナーシップの構築を進めていきます。
本社ビルサイトをはじめ、6月の環境月間などを利用して全国支社営業所、工場にて地域掃除活動などを実施。しかしながら、全社として取り組みのばらつきがみられました。地域の方を対象に環境学習の場の提供を計画しています。
全社規定見直しが完了し、主要な環境関連データをエコカルク※に集約一元化。 PRTR法については完全に対応しています。 連結子会社を含む国内の生産事業所で土壌汚染調査を完了し、管理継続をしています。 今後、土壌浄化工事の定期管理が課題となります。 ※社内イントラネットを利用しINAXの環境負荷データを集計・公開しているシステム ⇒P.42参照
2002年8月「有害化学物質使用規定」を制定し、人体及び自然環境への影響度から化学物質をランクづけし、分類。INAX禁止ランクの化学物質の新商品への使用中止を開始。その他の削減対象物質については対象をしぼり込み、その削減方法及び目標値、スケジュールなどの検討を開始しました。今後順次情報開示していきます。
現在検討を重ね、消費エネルギーで指数化することにしました。今後、指数算出の精度を上げ検証を行ない、2003年9月以降、運用ができるよう進めています。

蘇州伊奈建材有限公司（ISO14001本審査オープニングミーティング）

第2回グリーンパートナーシップセミナー

本社部門の地域環境活動

2.「つくる」「つかう」「もどす」を意識した循環型企業に進化します。

エコ商品は、ライフサイクルデザイン評価システムをバージョンアップし、着実に歩を進めています。結果170シリーズのエコ推奨商品を発売し、高い評価をいただいております。さらに低環境負荷・高パフォーマンスを実現するものづくりを進めていきます。
社会資源回収の仕組みづくりについては、行政はじめ多くの関係者との議論を経て、ようやく回収再利用の試行を開始した段階です。
また耐久消費財である設備機器のリース・レンタル、メンテナンスサービスなどの新しいビジネスモデル構築についても、テスト運用に向けいくつかの課題があります。循環の仕組み構築は大きなテーマであり、社内外への働きかけを強め、継続努力していきます。

行動項目	具体的目標項目	対象部門	自社評価
①循環を意識した商品開発システムを強化推進	ライフサイクルデザインシステム（LCD）の強化・推進	各事業部商品開発部門、環境推進室	☀
②自社、他社、公共廃材を積極利用したものづくり推進	エコマーク商品の拡大	各事業部商品開発部門、各工場	☀
	窯業系天然原料20%削減、その他商品で社会資源の積極活用	各事業部商品開発部門、各工場	☀
③商品の信頼性、長寿命化推進サービスの拡大	新ビジネスモデル構築と事業化	環境推進室、営業本部、各事業部	☁
④寿命商品回収、再資源化システム構築	循環ビジネスモデルの構築	各事業部、営業本部、環境推進室	☀
	広域再生利用事業指定による回収	環境推進室、営業本部、各事業部	☀
⑤低環境負荷・高パフォーマンス商品の開発	エコ推奨商品の拡充と強化	各事業部商品開発部門	☀

具体的指標

行動項目			2003年9月目標値	2002年実績	自社評価
エコ推奨商品の売上拡大			売上構成比70%以上	50.8%（2001年実績 35%）	☀
INPUT OUTPUTの削減	電気総使用量削減		1999年比3%減	1999年比0.5%増	☁
	コピー用紙総購入量削減		1999年比20%減	1999年比22%増	☂
	ガソリン総使用量削減		1999年比10%減	1999年比15%減	☀
	水取水量削減		1999年比5%減	1999年比1.8%増	☁
	要リサイクル資源発生量削減		1999年比50%減	1999年比30%減	☁
	バージン原料の削減	窯業系原料	1999年比20%減	1999年比15%減	☀
		住設系部材原料	代表品種で10%削減	例：人造大理石8.5%減	☀
	CO_2排出量の削減	生産	1990年比36%減維持	1990年比36%減	☀
		物流トラック	1996年比20%減維持	1996年比33%減	☀
	梱包材の削減	パレット購入量	3500枚／月	6,124枚／月（月平均）	☂
		段ボール使用量	1999年比5%減	1999年比4%減	☀

2002年目標達成度： 達成 もう少し 未達成

成果・進捗と今後の課題
INAXのエコ商品を評価するライフサイクルデザインシステム（以下LCD）ver.5.1では評価基準を18品種別に区分。市場投入品種ごとのリサイクル設計基準を明確化。（システムバス「i-bath2003」、洗面化粧台「エルシィ」）。また節電・低VOC、調湿・脱臭などをLCD評価に組み込みました。今後の課題は、「もどす」の基準強化で、「廃棄、リサイクル」ステージのLCA（ライフサイクルアセスメント）導入などです。 ⇒P.43参照
2003年3月末時点で、エコマーク商品67シリーズ、グリーン調達適合商品123シリーズとなり、今後もエコマーク商品の拡大を推進します。 ⇒P.45参照
窯業系バージン原料は2002年で14%の削減を達成。また内装タイル「ミスティキラミック」をはじめとして再生資源を活用したリサイクル商品を多数開発しました。リサイクル商品は全販売面積の36.6%を占めています。伊賀工場では、広域再生利用事業指定にて毎月2tのタイルを回収し、原材料としてリサイクルしました。汚泥再資源化施設では、INAX及びグループ会社だけでなく、食器メーカー等の汚泥の処理も開始し、地場産業の資源循環への貢献を本格化させました。2002年度は約6,000tの汚泥を処理しました。製造工程で発生する樹脂系廃材の再利用については、PP・ABS廃材の100%再利用を達成しました。エンプラランナーやHIPS廃材を製品部品として再生利用しています。またFRPなどの再利用が難しいとされる樹脂廃材の研究を継続して行ない、ベランダやバルコニーの仕上げ材としての研究開発を進めています。納品される部材や材料の梱包用PPバンドの廃材を利用したリサイクルコンテナ3,500個を成形し活用しています。他社廃材の再利用では、JR東日本の線路の砕石廃材を低エネルギーで水熱固化させた土系舗装材を開発しました。今後は、さらに未利用の社会資源の研究を進めていきます。 ⇒P.44〜46参照
建築のライフサイクルにあわせた設備商品の長寿命化推進と寿命商品のすみやかな回収・リサイクルを行なうためにメンテナンスサービスと機能をセットで販売するリース・レンタルのビジネスモデルを開発中。このライフサイクルサービス事業（LCS）のテスト運用を準備中です。
リフォーム等で発生する廃棄物の発生量と種類の分析に着手し、社内外への再資源化の検証を開始しました。食品系の廃棄物の再生利用事業として「オカラ再生利用事業」を2002年4月より事業化し、東海地区からスタートしました。 ⇒P.47参照
広域再生利用事業指定を用いたタイルの端材、残材回収を、タイル外壁プレカット工場と特約店から開始し、月に数トンを再利用しています。回収の効率化のため折畳式の専用コンテナを開発し試験運用中。建設現場から直接タイル端材、残材を回収するため、総合建設会社との基本契約を数社と締結。今後は基本契約締結社数を増やすとともに、実現場での回収実績を向上させます。
エコ推奨商品は、「サティス」、「エコカラット」の機能向上に加え、システムバス「i-bath2003」、洗面化粧台「エルシィ」、システムキッチン「ピアッセ」などの新商品を発売し、2002年3月末の148シリーズから2003年3月末現在170シリーズに拡充。また、2002年6月に「エコロジー&エコノミー」を切り口に商品個別のエコ情報を分かりやすく説明したエコ商品カタログを発行。

エコ商品カタログ

今後の課題
2002年エコ推奨商品が売上寄与し順調に推移。2003年も順調に拡大します。
生産部門の節電効果により前年比2%減。目標達成に向け、ラストスパートします。
前年比11%増と更に悪化。営業部門の削減活動を本格化しました。
前年比5%減で目標を達成。エコドライブの推進等の活動を継続強化します。
前年比6%増と削減進まず。生産部門の取り組みを強化します。
前年比19%減。FRP廃材の再利用等、難易度は高いものの最大限努力します。
前年比14%減と大幅に削減が進みました。目標達成に向け、ラストスパートします。
目標をほぼ達成。確実に目標を達成します。
目標を継続して維持します。
目標を達成しています。
出荷・保管の小口化と輸入品の増加により大幅に悪化。回転率、回収率を高め目標に近づけます。
目標をほぼ達成。確実に目標を達成します。

ものづくりのためのINPUT・OUTPUT

2002年4月1日〜2003年3月31日　国内生産系子会社含む

ものの流れを押さえ、エネルギーの削減、資源の社内外再資源化を進め、INPUT・OUTPUT削減に取り組んでいます。
ここでは、INAXの根幹である製造場面のデータを中心に、主要資源の流れと削減の工夫を紹介します。

INPUT

製造部門のエネルギー・資源使用量

電　気（千kWh）	157,860	重　油（ｷﾛﾘｯﾄﾙ）	1,833
ＬＰＧ（　t　）	16,959	ガソリン（ｷﾛﾘｯﾄﾙ）	330
ＬＮＧ（千m³）	13,607	軽　油（ｷﾛﾘｯﾄﾙ）	90
灯　油（ｷﾛﾘｯﾄﾙ）	14,507	水　（千m³）	894

窯業原料

天然鉱物原料 184,748t

再生原料 89,172t

金属原料

銅合金 5,808t

樹脂原料

ペレットなど 27,128t

※ペレット：樹脂原料で、米粒状になっているもの。これを溶かして様々な形に成形します。

仕入れ商品

合板・ボード 128,001枚

各種部品

副資材

段ボール 約132,000t

Reduce（削減）, Reuse（再利用）

Recycle（再生）

社会資源へ

汚泥 9,868t

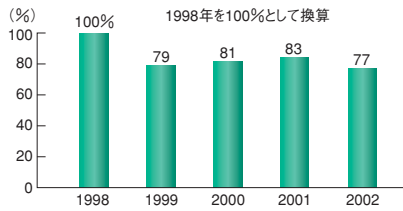
陶磁器くず 12,185t

廃プラ 1,879t

物流部門（梱包・輸送）

●輸送トラックのCO_2排出量の削減

（%）1998年を100%として換算

年	1998	1999	2000	2001	2002
CO_2排出量（%）	100%	79	81	83	77

●輸送用副資材の削減

段ボール使用量・パレット購入量の削減

（%）1998年を100%として換算

年	1998	1999	2000	2001	2002
パレット	100%	88	82	60	103
段ボール	100%	90	90	88	86

INAXが扱う主な原料は、衛生陶器やタイルの窯業原料、浴槽などの樹脂原料、水洗金具などの金属原料などです。化粧台やキッチンの木質系材料は、扉などに加工された部材で納入され、工場で組み立てられます。その他、スイッチなどの小さな樹脂パーツやネジ、電子部品などもその多くを半製品として購入しており、1万種もの部品を扱う工場もあります。

再生原料の積極利用による天然原料使用量の削減、1990年比36%減の二酸化炭素排出量の維持、生産工程で発生する産業廃棄物埋立ゼロ継続などの活動を強化、推進しています。

尚、データの算出方法を今年より変更したため、経年変化率は来年より明確にします。

お客様へ

再資源化ステーション

徹底分別

有効利用 23,932t

OUTPUT

大気への炭素排出…33,298t-C

排水 ………………760,329m^3

一般廃棄物 …………… 251t

産業廃棄物 …………… 920t

INAXでは、生産工程から発生する産業廃棄物は、全て再利用・再資源化しています。しかし、生産設備の入れ替えに伴う廃棄や返品商品などは埋立処分されており、2002年の年間では920tになります。今後は不定期発生のものも視野に入れた改善を進め、一般廃棄物を含めた削減を検討していきます。また、不良率の改善により、廃棄物そのものが削減され、社外で再生される有効利用量を約1,000t減らしました。

環境会計（マテリアルバランス）

INAXの環境会計は、環境活動の効率的な実施の把握と内部管理を進めるため、資源のINPUT・OUTPUT量を評価する物量効果と、環境費用、金額効果を算出しています。

INAX単独での2002年度（2002年4月1日〜2003年3月31日）の環境費用は、13億53百万円（前年差1億42百万円減）で、そのうち環境投資が1億90百万円（前年差70百万円減）、維持費用11億49百万円(前年差86百万円減)、環境損失は14百万円(前年差14百万円増)でした。環境損失が増えた要因は、大谷工場での土壌汚染処理費用によるもので、この処理は2005年4月末に完了予定です。金額効果は、7億32百万円で前年差3億99百万円増でした。

環境会計の金額把握はINAX単独ですが、物量効果については、国内生産系子会社も合わせて把握し、子会社のデータも含めた掲載としています。2001年度は国内生産子会社7社を含めた物量データでしたが、2002年度よりさらに国内生産子会社3社と海外生産子会社4社のデータが追加されています。

INAX全社の資源使用量は、2001年度と同じ集計範囲で比較すると、前年比で電気2.3%減、ガソリン5%減でしたが、水0.4%増、コピー用紙9.9%増で、電気を含む燃料系資源からの炭素総排出量は、51,125t-C（前年比4.6%減）でした。また一般廃棄物は前年比18.4%、産業廃棄物は10.4%削減しました。

環境費用

2002年4月1日〜2003年3月31日　INAX単体の全部門

単位:百万円

区分	項目	内容	2001年実績	2002年実績	前年差
環境投資	公害防止費用	公害防止設備の新規投資	57	45	−12
	環境マネジメント関連費用	環境負担の監視・測定機器の購入・設置費用	0	3	2
	省エネルギー・省資源等の費用	省エネルギー・省資源（不良率改善等）対策費用	64	112	48
	産業廃棄物処理・リサイクル費用	廃棄物の処理・処分・リサイクルに関する投資費用	48	11	−37
	研究開発費用	環境に関する研究・開発費用	57	15	−43
	社会的取組費用	敷地内緑化費用（固定資産計上）	34	5	−30
	合計		260	190	−70
維持費用	公害防止費用	公害防止設備の維持管理費用（含む人件費）	228	248	19
	環境マネジメント関連費用	ISO14001認証取得・維持費用、環境対策組織の人件費、環境負担の監視・測定費用	349	361	11
	産業廃棄物処理・リサイクル費	廃棄物の処理・処分・リサイクルに関する費用	499	444	−56
	産業廃棄物処理・処分費用	産業廃棄物の処理・処分費用（含む運賃）	76	70	−6
	社会的取組費用	敷地内緑化・工場内外の清掃費用	155	95	−61
	その他環境関連費用	汚染負荷量賦課金等	2	2	−0
	合計		1,234	1,149	−86
環境損失		汚染浄化措置費用、賠償金等	—	14	14
環境費用合計			1,494	1,353	−142

環境投資:R&D等で環境負荷軽減への積極的貢献目的で支出され、その効果が当期のみならず、将来に及ぶものと判断した支出
維持費用:環境投資以外の支出。廃棄物処理費用等の日常的な支出で、その効果が当期のみにとどまるもの
環境損失:汚染浄化措置費用、賠償金等のペナルティー的意味の支出
前期実績は2000年10月21日〜2001年10月20日の集計値
減価償却費含まず

〈参考〉環境省環境会計ガイドラインに対応した集計表

単位:百万円

分類		投資額	費用額
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）	公害防止コスト	45	248
	地球環境保全コスト	105	6
	資源循環コスト	13	429
生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト		—	15
管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）		3	361
研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）		11	4
社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）		5	97
環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）		2	12
合計		182	1,170

物量効果（マテリアルバランス）

2002年4月1日〜2003年3月31日　子会社14社（国内子会社10社と海外生産子会社4社）含む
※2002年度分より国内生産子会社3社、海外生産子会社4社の計7社のデータが追加されています。

INPUT

	種類		2002年実績	用途など 備考
主要原料	窯業原料※	天然鉱物原料（t）	184,748	衛生陶器、内装タイルなどの原料
		再生原料（t）	89,172	タイル原料で、焼却灰、廃ガラスなどの産業廃棄物
	樹脂原料※	熱可塑性樹脂（t）	6,224	シャワートイレ、ミラーキャビネットなどの原料で主にPP, ABS
		熱硬化性樹脂（t）	4,617	浴槽、防水パンなど大型樹脂製品の原料で、主にUP
		充填材（t）	16,287	ガラス繊維、炭酸カルシウム、水酸化アルミニウムなど
	金属※	銅合金（t）	5,808	水栓金具などの原料で黄銅、青銅など
	木材※	合板（枚）	110,671	キッチン、化粧台などの収納キャビネット類の構成材
		パーチクルボード（枚）	17,330	
副資材	パレット購入量※（枚）		73,488	2001年実績 42,780枚（前年比 78.1%増）
	段ボール使用量※（t）		132,000	2001年実績 136,944t（前年比 3.6%減）※
	コピー用紙（千枚）		52,523	2001年実績 45,928千枚（前年比 14.4%増）

※印のデータは、海外生産子会社のデータは含みません。
※昨年掲載数値は月間購入量で単位を間違っておりました。訂正してお詫び申しあげます。

	種類	2001年実績	2002年実績（前年比）
エネルギー・水	電気（千kWh）	185,779	211,281（13.7%増）
	LPG（t）	16,749	23,925（42.8%増）
	LNG（千m³）	16,393	16,110（1.7%減）
	灯油（キロリットル）	16,046	16,540（3.1%増）
	重油（キロリットル）	1,804	1,849（2.5%増）
	ガソリン（キロリットル）	2,070	2,052（0.9%減）
	軽油（キロリットル）	231	1,502（550.7%増）
	取水量（千m³）	1,008	1,327（31.7%増）
	水循環量※（千m³）	642	602（6.2%減）
	水循環率※（%）	63.7	45.4

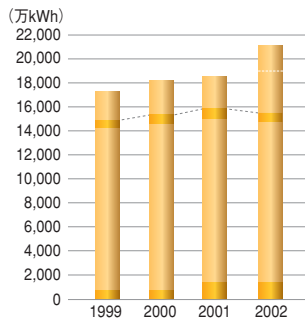
※循環量把握工場:伊賀、榎戸、九州INAX鹿島工場、上野、常滑、常滑東、大谷、土浦、常滑東工場東浦製造課、東濃INAX明智工場、アーストン、日本陶業、VINAX
※水循環率＝水循環量÷取水量

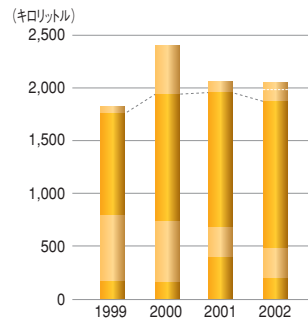
OUTPUT

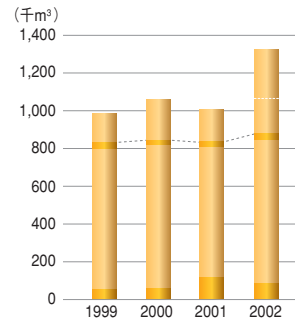
種類	2001年実績	2002年実績（前年比）
排水量※（千m³）	804	1,138（41.5%増）
一般廃棄物※（t）	631	811（28.5%増）
産業廃棄物※（t）	3,705	6,347（71.3%増）
炭素（燃料使用量換算）（t-c）	53,617	63,199（17.9%増）

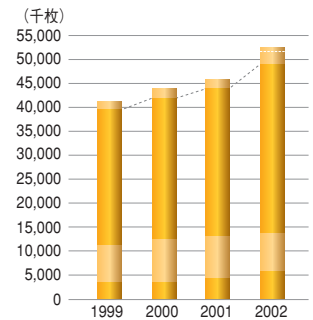
※排水量が把握できていない事業所分は、取水量をカウントしています。
※各廃棄物は、直接焼却及び埋立処分のみの量です。

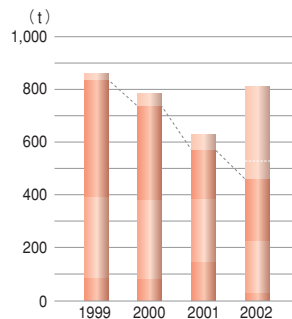
電気の使用量

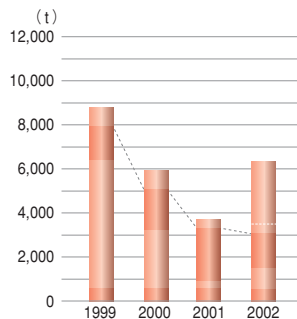
昨年までの集計範囲では生産部門の努力で前年比2.3%減となりました。

ガソリンの使用量

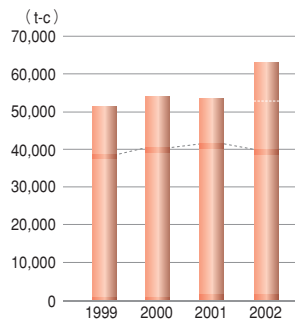
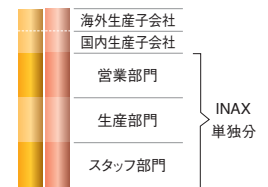
昨年までの集計範囲では、営業部門の増加をスタッフ部門の削減でカバーして前年比5%減となりました。

水の使用量

スタッフ部門と子会社の削減分を上回る生産部門分の増加によって、昨年までの集計範囲では前年比0.4%の微増となりました。

コピー用紙の使用量

営業部門(全体の67%)14%増、スタッフ部門(全体の13%)の23%増により昨年までの集計範囲で前年比9.9%増と厳しい状況です。

一般廃棄物の排出量

営業部門の増加を他の部門の削減が大きく上回り、昨年までの集計範囲で前年比18.4%減となりました。

産業廃棄物の排出量

全部門グループで削減が進み、昨年までの集計範囲で前年比10.4%減となりました。

炭素排出量(燃料使用量換算)

営業部門の増加を他の部門の削減がカバーし、昨年までの集計範囲で前年比4.6%減となりました。

子会社:国内子会社10社と海外生産子会社4社の計14社(2002年度分より国内生産子会社3社、海外生産子会社4社のデータが追加されています)

環境汚染物質排出・移動量(PRTR法対象物質):5物質のみの速報

2002年度(平成14年度)の国内21生産事業所で取り扱うPRTR法対象物質について表に取扱、排出、移動量を示します。2002年度は、今回報告の特定第1種指定2物質、第1種指定3物質の総取扱量は2810.8t/年(対前年度比5%増)、大気への総排出量171.9t/年(同27%減)、水系への総排出量0.9t/年(同129%増)、土壌への総排出量0t/年、廃棄物(社外リサイクル含む)に含まれての総移動量31.8t/年(同14%減)でした。スチレンと六価クロム化合物の排出移動量の減少は、より精度の高い集計方法への変更によるものです。

全対象物質の集計結果が出次第、INAX公式ホームページに追加掲載します。

2002年4月1日～2003年3月31日　子会社含む国内全生産事業所(21箇所)　( )内は前年比

制令番号	化学物質名	取扱量(t)	大気排出量(t)	水域排出量(t)	土壌排出量(t)	移動量(t)
26	石綿	368.20 (5%減)	—	—	—	3.97 (37%減)
69	六価クロム化合物	3.83 (10%増)	—	—	—	2.44 (51%減)
177	スチレン	2,399.15 (7%増)	148.70 (32%減)	—	—	25.19 (1%減)
227	トルエン	23.99 (19%減)	8.56 (68%増)	—	—	0.15 (236%増)
283	フッ化水素及びその水溶性塩	15.64 (24%増)	14.66 (20%増)	0.87 (131%増)	—	0.00 (99.99%減)
合計		2,810.81 (5%増)	171.93 (27%減)	0.87 (131%増)	0.00	31.75 (14%減)

取扱量と(大気排出量＋水域排出量＋土壌排出量＋移動量)の差は、PRTR物質が、①事業所内で対象外の物質に変化した量、②製品に含まれる量、および③事業所内でリサイクルされる量です。移動量とは、廃棄物に含まれて事業所外に移動した量です。
※取扱量が全生産事業所合計で0.1t以上の集計結果
※関連情報⇒P.42

金額効果

2002年4月1日～2003年3月31日　INAX単体の全部門

単位:百万円

項　　目	内　　容	2001年実績	2002年実績	前年差
リサイクル活動	廃棄物のリサイクルによる費用削減額、有価物の売却額	394	542	148
省エネルギー・省資源活動※	電力、油、ガス使用量削減に伴う費用削減額	−61	190	251
合計		332	732	399

※効果算出は単価変動分を補正しています。

環境経営指標

新環境経営指標の開発

inax.co.jp/eco/management/indicator/

企業は、地球環境から限りあるさまざまな資源を調達し、それらの資源を利用して活動しています。
そこで、INAXは、企業活動における地球環境負荷を総合的にとらえる指標の開発に着手し、検証を重ねてきました。

●新環境経営指標の狙い

環境経営には、企業活動が地球環境に与える負荷に対して、企業活動そのものが生み出す価値はどのように変化しているのか、企業活動として、全体最適な動きができているのか、ポジティブな商品開発やサービスにつながっているのかなどの経営判断できる指標が必要です。

●新環境経営指標の検証状況

INAXは「人と地球を考えたものづくり・企業活動」を追求していますが、特にINPUTを減らすことが重要と考えています。そこで、INAXは、地球への負荷（INPUT+OUTPUT）の資源消費に着目して指数化し、その指数を用いて環境経営指標とすることを考えています。

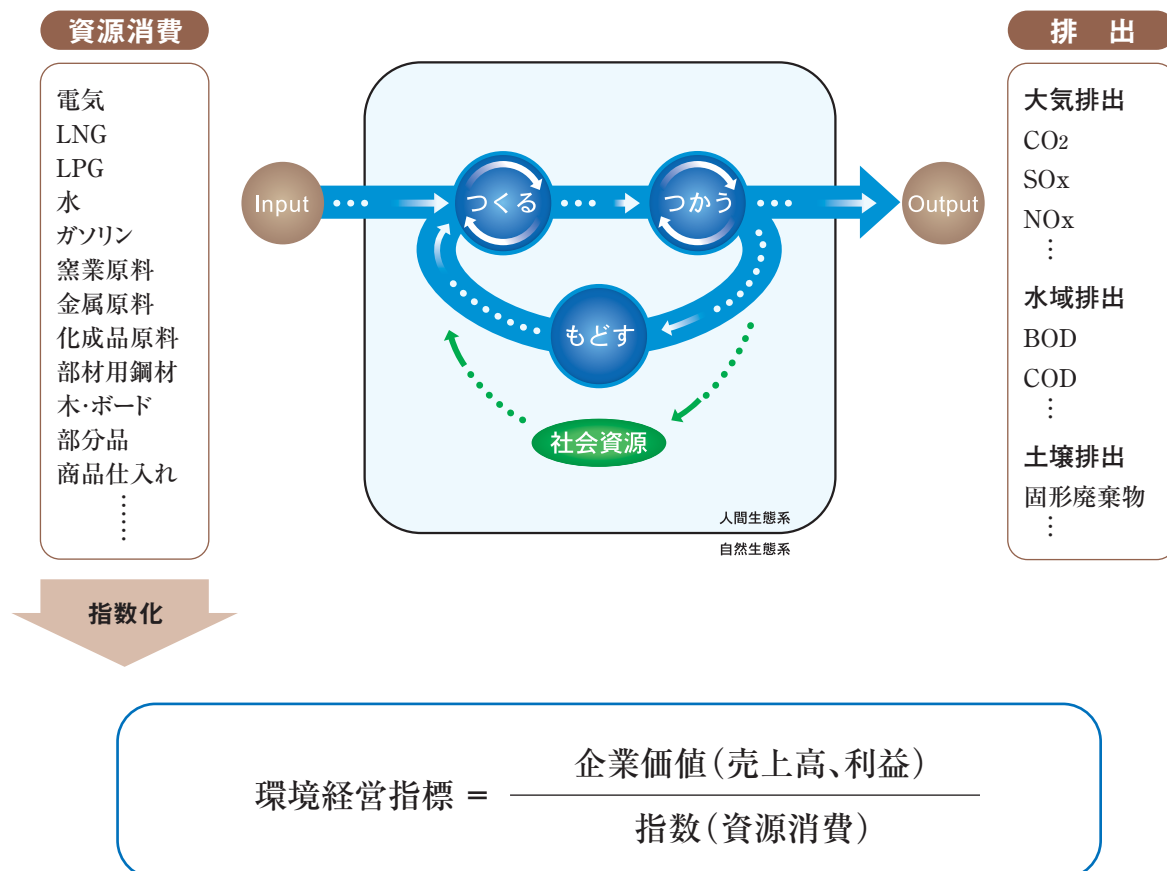
2002年は、INAXが利用する地球資源の消費量（負荷）を資源枯渇、消費エネルギー※、CO_2排出量などで指数化して、企業価値の推移でシミュレーションを行ないました。その結果、消費エネルギーで指数化することが、INAXの環境経営の実態を反映するのに適していると判断致しました。

INAXの企業活動に必要な消費エネルギーは、おおよそ1.084×10^{10}MJ（メガジュール）でした。

今回の算出対象となった消費エネルギーは、INAXの企業活動の約80%をカバーしていますが、評価指標として用いるには、まだまだ精度が不足しています。

今後、仕入先等からさらに正確な値を入手するシステムを運用していきます。と同時に、この消費エネルギーの指標が、INAXが生み出した企業価値と地球環境への負荷を正確に映し出しているのか、仮運用をしながら、経年分析、事業部別分析などの検証を進めていきます。2003年9月以降、実運用ができるよう努めます。

※消費エネルギー：INAXが直接利用する資源と仕入れ商品・購入部材で利用する資源の採取から加工までに必要な消費エネルギーとINAXで直接消費する消費エネルギーを総和したものと定義

$$\text{環境経営指標} = \frac{\text{企業価値（売上高、利益）}}{\text{指数（資源消費）}}$$

環境マネジメントシステムの展開

INAXグループの環境経営の確立

inax.co.jp/eco/management/ems/

INAXグループのEMS（環境マネジメントシステム）は個々の部門／サイト毎のISO14001／EIAP※1のシステム、及びそれらを有機的につなぎ、補い、統制する全社のシステムによって構成されています。

※1 EIAP：INAX環境アクションプログラムの略。ISO14001の17要求事項の内、スタッフサポート部門にとって重要なもの10項目を社内向けの言葉に置き換えたINAXオリジナルのEMS規格。ISO14001審査登録制度に準じて、社内審査員による登録審査／定期サーベイランスを実施しています。

※2 EOS：労働安全衛生の国際規格である安全衛生マネジメントシステム（OHS）とEIAPを合体させた営業部門のINAXオリジナルマネジメントシステム

INAXグループのEMS

全社EMS

- グループ環境マニュアル — ①全体の方向／考え方／基本ルール グループ環境マニュアル
- 環境基本理念 第3次環境宣言 全社共通規定類 — ②全社共通の計画／ルール／仕組み 環境基本理念／公害防止管理規定／第3次環境宣言

部門ごとのEMS

- 部門環境マニュアル　部門環境マニュアル
- ISO部門固有手順　EIAP部門固有手順（営業部門はEOS※2）
- ③各部門毎の計画／ルール／仕組み／部門環境マニュアル／改善計画／推進体制／規定／手順書類等

凡例：INAXスタッフ／INAX生産部門／INAX営業部門／子会社

準備期 EMS導入中　成長期 認証取得　充実期 2001年以前に認証済み

- 甲信支社 EOS社内認証完了
- 東濃INAX ISO14001認証取得
- アーストン ISO14001認証取得
- 北陸支社 EOS社内認証完了
- 関西統括支社 EOS社内認証完了
- 大阪支社 EOS社内認証完了
- 神戸支社 EOS社内認証完了
- 京都支社 EOS社内認証完了
- 尾道工場 ISO14001認証取得
- 中国支社 EOS社内認証完了
- 九州支社 EOS社内認証完了
- 九州INAX佐賀工場 ISO14001認証取得
- 九州INAX鹿島工場 ISO14001認証取得
- 四国支社 EOS社内認証完了
- 伊奈精機 ISO14001認証取得
- 伊賀工場 ISO14001認証取得
- 上野緑工場 ISO14001認証取得
- 上野工場 ISO14001認証取得
- 青山工場 ISO14001認証取得
- 中部統括支社 EOS社内認証完了
- 名古屋支社 EOS社内認証完了
- 静岡支社 EOS社内認証完了
- 祖父江工業 EOS導入準備開始
- 北海道支社 EOS社内認証完了
- 江別工場 ISO14001認証取得
- 東北支社 EOS社内認証完了
- 関東支社 EOS社内認証完了
- 土浦工場 ISO14001認証取得
- 筑波工場 ISO14001認証取得
- 東京本部 EOS社内認証完了
- 西東京支社 EOS社内認証完了
- 首都圏統括支社 EOS社内認証完了
- 横浜支社 EOS社内認証完了
- 東京支社 EOS社内認証完了
- 東関東支社 EOS社内認証完了
- マルニシ EOS導入準備開始
- 高橋伊奈販売 EOS導入準備開始
- 蘇州伊奈建材 ISO14001認証取得
- 蘇州伊奈衛生潔具 ISO14001導入開始
- 蘇州伊奈陶瓷 ISO14001準備開始
- 台湾INAX ISO14001導入開始
- VINAX ISO14001認証取得
- 本社ビルサイト ISO14001認証取得
- 物流サイト EIAP社内認証完了
- 空間技術研究所ビル EIAP社内認証完了
- 情報システム棟 EIAP社内認証完了
- アクア事業部久米 EIAP社内認証完了
- 建材技術研究所 EIAP社内認証完了
- 協力工場部 EIAP社内認証完了
- 大谷工場 ISO14001認証取得
- 知多工場 ISO14001認証取得
- 半田工場 ISO14001認証取得
- 常滑東工場 ISO14001認証取得
- 榎戸工場 ISO14001認証取得
- 久米工場 ISO14001認証取得
- INAXメンテナンス本社 EIAP社内認証完了
- INAXエンジニアリング本社 ISO14001認証取得
- INAX総合サービス本社 ISO14001認証取得
- INAXビルサービス本社 EIAP社内認証完了
- 日本陶業 ISO14001導入開始

本社ビルサイト

inax.co.jp/eco/management/site/staff/

本社ビルサイトでは、直接的な環境負荷低減を目指す「エコオフィス活動」と各部門が業務に関わる環境改善目標を掲げ取り組む「エコスタッフ活動」の2つの柱で活動を行なっています。

「エコオフィス活動」では、ゴミ分別回収の再認識のため分別回収コーナーを改善し「迷い物掲示板」を設置、リサイクルできるものは一目でわかるように表示しています。

「エコスタッフ活動」では、購買センターのグリーン購買、人事部の環境教育導入、法務総務部の社会貢献活動など、各部門がさらに進化したエコスタッフ活動の取り組みを開始しました。

分別回収コーナー

分別の仕方を掲示

スタッフ部門

inax.co.jp/eco/management/site/staff/

●太陽光発電システムの導入／知多事業所

知多事業所では、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究として太陽光発電システムを導入しました。晴天時には20kWの発電能力があり、年間発電電力量として、25,000kWhの予測をしており、事務管理棟で使用する全照明(40Wの蛍光灯500本分)を賄うことができます。
事務管理棟の玄関に、ただいまの発電電力と累積発電電力量、ドラム缶換算およびCO_2削減を表示する表示盤を設置しています。

事務所前と屋上設置の発電パネル

事務管理棟玄関に表示盤を設置

●包装レスの取り組み／物流部

物流部では、大型物件現場向けの包装レスに取り組んでいます。2002年10月より、金具小物の外箱の通い箱化を開始しました。また2003年2月より、シャワートイレ(シートタイプ)、陶器単体のロールボックスパレット利用による包装レス納品の対応を開始しています。

ロールボックスパレットに裸で積んで出荷

利用後は折り畳み回収

コンテナに個袋のまま詰めて出荷

利用後は折り畳み回収

営業部門

inax.co.jp/eco/management/site/business/

営業部門のコピー用紙購入量は全社の約7割を占めており、全社に大きな影響を与えています。そのため、モデル支社を選定し、全支社へ展開できるコピー用紙削減施策を推進しています。まずモデル支社で実態調査とその分析、様々な対策を実施し、その効果を検証しました。その施策や結果を社内イントラにまとめ、全支社へ展開し同様の施策の実施を強力に推進しています。

裏紙の回収・利用の推進

●仕入先への働きかけと環境コミュニケーション／筑波工場

筑波工場では、2003年1月に主要仕入先業者20社に対し、パートナーシップ及び環境活動における協力事項などの方針説明会を実施しました。仕入先業者の環境改善事例発表などもあり、今後年1回定期開催する予定です。また、事務所受付の環境コーナーをリニューアル、工場の環境報告書を改訂するなど、工場の環境取り組みをアピールしています。

筑波工場
生産技術課
粟野利博

環境コーナー

環境報告書

●回収シャワートイレの分解リサイクル／知多工場

返品で工場に戻ってきたシャワートイレのリサイクルを促進するため、工場内に専用作業場を設けて、分解・分別・リサイクルしています。現状は、未使用返品の樹脂はマテリアルリサイクル、使用返品の樹脂はサーマルリサイクルをしていますが、将来的には使用品に関してもマテリアルリサイクルを検討していく予定です。

解体風景

知多工場
品質保証課
森田正勝

分別後

●上水と産業廃棄物削減／半田工場

半田工場では上水の削減に注力し、工程別水道メーターの設置と現状把握、組立て洗浄水の再利用、機械加工機冷却水の再利用などを実施し、2001年平均5,115t／月に対して2002年平均4,548t／月に削減しました。産業廃棄物削減については、銅合金鋳造の砂型に使った廃砂を精製し外装タイルに使えるようにしたこと、またそめっきスラッジの発生量を、廃水処理薬剤の変更により大幅に削減したことにより、目標達成期日まで6ケ月を残して、産廃の半減に手が届くところまで進んでいます。

半田工場
技術課
鈴木佳博

●自家用発電設備を導入し、コージェネレーションシステムでエネルギーの有効利用／大谷工場

3月に竣工した自家用発電設備のシステムは、年間約10%の電力費用のコストダウンを図れますが、最大の特徴は発電時に発生する温排水（70℃）を、熱交換機を通して冷暖房に利用するコージェネレーションシステムであることです。この熱交換機は冷媒に水、吸着材にシリカゲルを用いており、もちろんフロンは使用していません。

大谷工場
生産技術課
石本　進

●樹脂浴槽の軽量化／上野緑工場

人造大理石浴槽の主力製品であるエセンヌ浴槽について、原料の配合、製品の形状デザイン、成型技術、浴槽の構造など多面的に技術研究を進め、製品の厚みを薄くできる技術を開発しました。この開発により、質量で30%の軽量化が実現し、廃棄物削減に効果を上げています。また軽量化することで、コストダウンや施工場面におけるハンドリング性も向上しました。

上野緑工場
生産技術課 技術係
藤田敦宏

技術研究所
材料技術開発室
上野正和

環境教育

inax.co.jp/eco/management/communication/education/

イントラネット(eラーニング)を活用した全従業員対象の環境教育を開始

環境活動を企業成長に、またブランド向上につなげるために、全社員の環境に関する認識を深め社員一人ひとりが自信を持ってINAXの取り組みを語れるように全社展開の社員向け教育を2003年2月からスタートさせました。まず社員職層※1全員(約2,000名)を対象に、基本的には社内イントラネットを活用したeラーニング方式での受講を進めています。2004年3月までには基幹職層の総合職対象※2(約1,100名)にも同様の教育を実施する予定です。

対　象	目的・ねらい	種　類	2002年10月～2003年3月	2003年4月～2003年9月	2003年10月～2004年3月
基幹職層	INAXの考える地球環境問題を語ることができ、企業成長と連動した業務課題を推進する能力開発	機能別研修(総合職必須)			定常開催
		共通研修			実施(総合職必須)
社員職層	地球環境問題観点での業務内容を理解し、業務に活用できる能力開発	機能別研修(総合職必須)	2003年2月よりスタート	実施(G3から)	定常開催
		共通研修	実施(全員)		定常開催

※1:目安として入社後1～10年程度経年の若手社員(上司の指示の下、基本業務を担当する者)
※2:目安として28～45歳の中堅社員(部門課題を中心的に実行・達成し、課・係の組織運営ができる者)

環境リスク管理の強化推進

inax.co.jp/eco/management/ems/risk_management/

環境汚染物質排出・移動登録(PRTR法)に対する取り組み

1999年度(平成11年度)、2000年度(平成12年度)の全生産事業所の取扱・排出・移動量の実績、及び法規制による有害性評価を元に、INAXの生産工程で取扱うPRTR法第1種指定化学物質について、2001年に排出移動量削減物質、排出移動量削減検討物質、適正管理物質の分類を設定し、取り組みを開始しました。

排出移動量削減物質と分類した「トルエン」は、対象を大気への排出量とし、目標を2003年10月までに1999年度比50%以上削減としました。2002年度の達成状況は、防露タンク工程での材質変更は完了しましたが、他の用途(ユニットバスの塗装)の増加により、10.7t/年(1999年度)から8.6t/年(2002年度)と20%削減まで進んでいます。

土壌汚染調査

環境庁の「土壌・地下水汚染に係る調査・対策指針及び運用基準」(平成11年公表)に基づき、証券取引上の連結子会社を含む国内の生産事業所で調査を行ないました。この自主調査により、常滑市の大谷工場において、土壌汚染及び地下水汚染を発見することができ、2002年10月に愛知県及び近隣の方々へ情報公開すると共に愛知県の指導に基づき浄化対策を開始しました。その後の愛知県による周辺地域の調査では、汚染は発見されておりません。

分　類	土壌汚染	地下水汚染
汚染物質	鉛とホウ素	ホウ素
最大濃度(mg/リットル)	鉛:0.072　ホウ素:43	ホウ素:56.7
浄化方法	汚染土壌を掘削し廃棄物として処分	揚水井戸を設置し排水処理施設で浄化
浄化終了予定	2003年7月	2004年4月

注:鉛の環境基準:0.01mg/リットル　ホウ素の環境基準:1mg/リットル

大気、水質、騒音のINAX基準及び法遵守

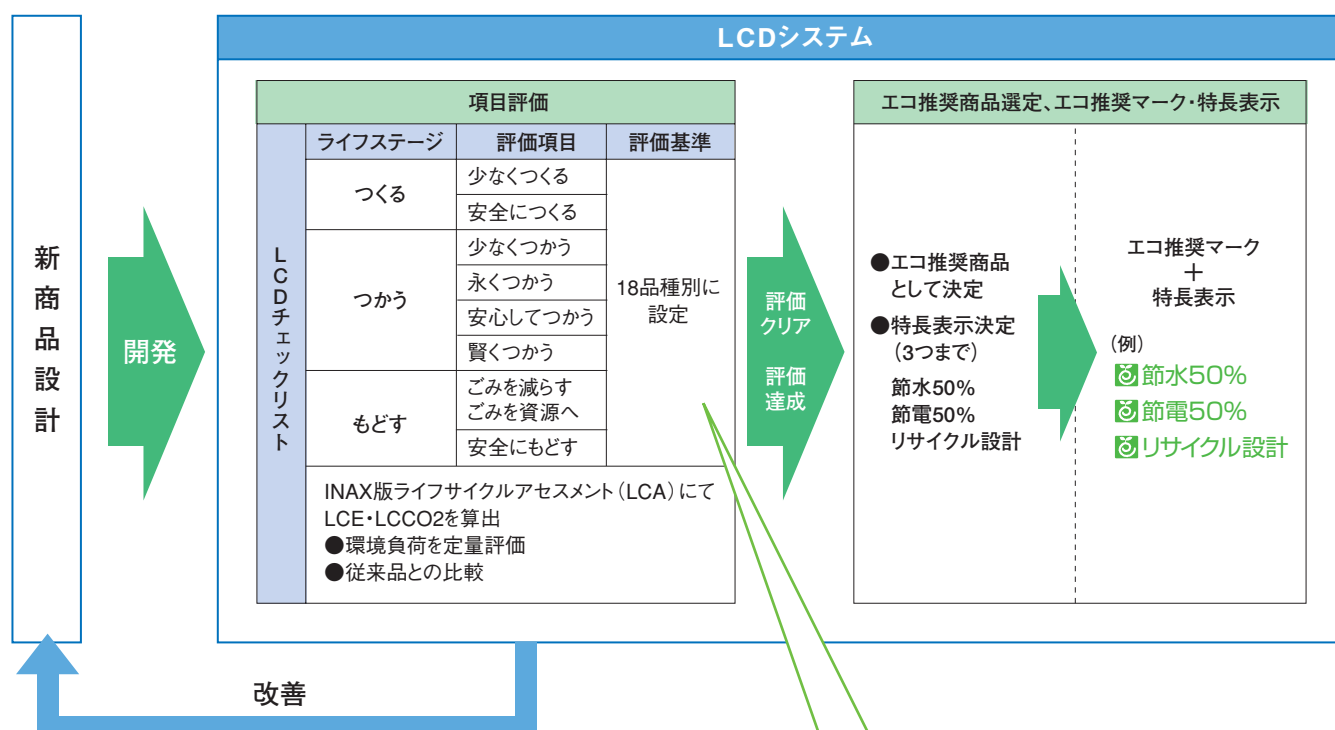
大気、水質、騒音については法令で定められた基準より厳しい社内基準を設定して遵法の管理を行なっています。また、2002年8月の公害防止管理規定の改正により、社内基準を2ヶ月連続オーバーした場合には改善報告書の提出を義務づけました。しかしながら、本年度は常滑工場の排水中のCOD値が法令で定める基準を超える事態が発生しました。常滑工場では昨年発生したCOD値超過に対して再発防止のために「多項目オンライン水質計」を導入して管理強化していましたが、人為的ミスにより再発してしまいました。管理者の教育等を再度実施し、人為的ミス撲滅のための施策を実行しています。

「つくる」「つかう」「もどす」の強化

商品開発システムの強化

inax.co.jp/eco/technology/products/lcd/

LCD（ライフサイクルデザイン）システムの進化／LCD ver.5.1

LCD（ライフサイクルデザイン）システムは、INAXの環境配慮型商品であるエコ推奨商品を開発するための評価システムです。LCD評価とライフサイクルアセスメント（LCA）による環境負荷の定量評価を行ない、評価をクリアした商品についてはエコ推奨商品として選定し、特長表示を最大3つまで選び、エコ推奨マーク+特長表示をカタログ等に表示しています。

LCDシステムは、常に評価内容・基準を見直し、より高いレベルのエコ推奨商品を開発するため進化を遂げています。2002年6月より運用を開始したver.5.1では、評価基準を従来の全品種共通から18品種別に設定し、より商品特性に合わせた評価が可能となりました。

具体的には、大便器・小便器の節水基準を定量値基準として必達化し、またユニットバス・システムキッチン・給湯器については、工業会発行のリサイクルアセスメントガイドラインとLCD基準を連動させ、リサイクル面の評価基準の充実を図りました。

今後は、もどす項目での基準強化を進め、常に社会的基準・業界トップランナーを見据えた基準のレベルアップを行なっていきます。

●評価基準を18品種別に設定

分　類		品　種
素材商品	建　材	内装（壁・床）タイル
	設　備	洗面器・手洗器
	住　器	単体浴槽
機能商品	設　備	大便器・小便器およびその洗浄装置
		シャワートイレ
		水栓金具
		アクセサリー
	住　器	給湯器
		浴室周辺機器
	アクア	ディスポーザー
		浄化槽
		真空システム商品
空間商品	建　材	システム建材
	設　備	システムトイレ
	住　器	ユニットバス
		洗面化粧台・システムカウンター
		手洗カウンター
		システムキッチン

低環境負荷・高パフォーマンス商品の開発

天然土系舗装「ソイルバーン工法」

inax.co.jp/eco/technology/r_d/soilbahn/

「ソイルバーン工法」は、ソイルバーン工法研究会※1で共同開発した、日本古来のたたきの技術を応用し、セメントや樹脂を一切使わず「天然の土」を常温で固めながら、歩道としての十分な強度と高い信頼性を実現した歩道舗装の新技術です。

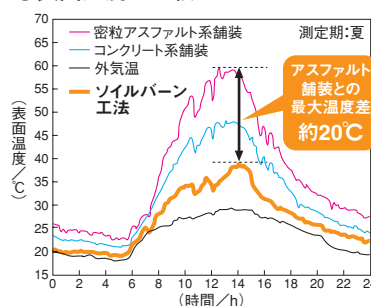
現地のマサ土※2と新たに開発したソイルバーン工法専用固化材を現地で混合し、ロードローラーなどで転圧し完成させる低環境負荷、自然回帰の工法で、公園・遊歩道・遺跡や史跡周辺の歩道など、歩行者専用の道路を対象としています。

「ソイルバーン工法」は、保水の気化作用により路表面温度の上昇を抑え、温暖化防止への効果が期待できます。また、セメントや樹脂を使用していないので燃料エネルギー消費や二酸化炭素排出の環境負荷がほとんどなく、天然土という手近な資源が有効活用できるため、省資源、運搬コスト低減に役立つ、という極めて環境に配慮した工法です。

※1 ソイルバーン工法研究会:大林道路㈱、大成ロテック㈱、鹿島道路㈱、世紀東急工業㈱、福田道路㈱、㈱ガイアートクマガイ、常盤工業㈱/㈱INAX（2003年4月現在）

※2 マサ土:砂質の中で特に花崗岩が風化してできた土。ソイルバーン工法では、含まれるシルト分（細粒物質）が、2割程度以下のものが使用できます。

●表面温度の比較

密粒アスファルト系舗装
コンクリート系舗装
外気温
ソイルバーン工法
測定期:夏
アスファルト舗装との最大温度差 約20℃
（表面温度／℃）
（時間／h）

●エネルギー消費の比較

●排出CO_2の比較

自社、他社、公共廃材を利用したものづくりの推進

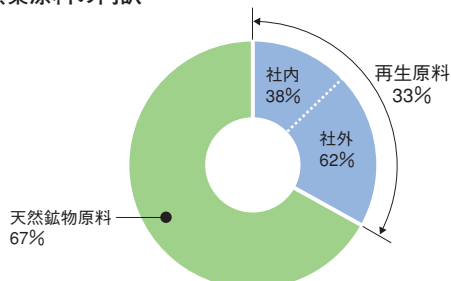
inax.co.jp/eco/technology/r_d/

窯業系再生資源の利用促進

再生原料を全窯業原料の35%にするという第3次環境宣言の目標に向かって取り組んだ結果、今年は再生原料が89,172t/年で、全窯業原料の約33%まで増えました。このうち、社内リサイクルは34,103t/年で、製造工程で出るくずはもちろん、排水に含まれる粘土まですべて無駄なく使い切る努力を続けています。

残りの55,070t/年は社外から受け入れている廃棄物で、使用量の多いものは主に、採石灰土や窯業廃土、キラなどです。その他、これまで捨てられていたさまざまな社会資源についても、タイルをはじめとする建材商品の原料として、再生、活用しています。

●窯業原料の内訳

再生原料 33%
社内 38%
社外 62%
天然鉱物原料 67%

●主な社外からの窯業系再生原料と代表商品

［窯業廃土］

タイル原料などを採取する際に発生する副産物の原料。従来は再度埋め立てられていたもの。

代表商品:ミスティキラミック

窯業廃土を21%使用。2003年よりグリーン購入法適合商品になりました。

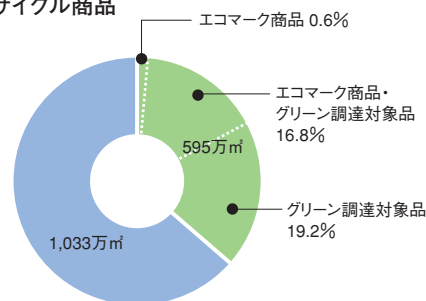
［キラ］

タイルやガラスの原料などに使用される「珪砂」採取時に副産物として発生する微小珪砂。

代表商品:ジオーク

キラをはじめ、窯業廃土、陶磁器汚泥、廃ガラスといった種々の再生原料を合わせて70%使用した、エコマーク認定の新商品です。

リサイクル商品の拡充

壁タイル、床タイルとも、再生資源を活用した、多数のリサイクル商品を開発、生産しています。タイルの総販売量は、面積換算で約1,628万㎡ですが、(財)日本環境協会のエコマーク商品は、64シリーズ(カタログ外特注品含む)で、全販売面積の約17.4%を、エコマーク商品を除くグリーン購入調達基準対象商品(107シリーズ)を加えると、595万㎡ほどになり、販売面積の36.6%を占めています。

廃プラ再生建材「ユニットフロアー」の開発

2002年に開発した「プラスチック廃材を使用した基材に、耐候性の高い無機系塗料をコーティングする」技術を応用した商品として、ベランダやバルコニーの仕上げ材「ユニットフロアー」の開発を進めています。

「ユニットフロアー」は、プラスチック素材ならではの成形自由度を生かしたジョイント構造、リブ構造が可能であることが特徴で、陶磁器質タイルより軽量なので、施工時の工程数が大幅に削減できます。また、寒冷地での凍害発生の心配もなく、さらに建築基準法の屋根不燃構造を取得しています。

この技術開発に対して、2002年12月に「第7回資源循環型生産システムシンポジウム」[※1]で中日新聞社賞を受賞しました。

※1：主催／第7回資源循環型生産システムシンポジウム委員会
（資源循環型生産システム研究会）

JR東日本の線路砕石の廃材を利用した「エコ・ブリックJ」

「エコ・ブリックJ」[※2]は、JR東日本の廃材である線路の砕石を粉砕し、ソイルセラミックスの原料に活用した土系舗装材です。焼成せずに固める製法のため、製造時のエネルギー消費量やCO_2排出量が少なく、また、商品を細かく砕けば原料として再利用できる循環型商品です。線路砕石は今まで一部を給水管の緩衝材などに再利用していましたが、環境的な再利用ができるよう株式会社ジェイアール東日本商事とINAXで共同開発しました。JR東日本副社長の褒賞を受けており、すでに2現場に納品されています。

同様に、INAXの技術で街に出たリサイクル資源をオリジナル舗装材として街に戻す、という取り組みを続けていきます。

ホテルエドモンド 新館

※2：「エコ・ブリックJ」の発売元は株式会社ジェイアール東日本商事です。

樹脂系再生資源の利用促進／エンプラ※ランナーのリサイクル

今までは、ガラス強化熱可塑性樹脂のランナー（射出成形する際に製品型まで樹脂を導く経路で固まったもの）の再生利用は、エンプラ原料を成形・粉砕することにより強度が低下するなどの理由から行なっていませんでした。しかし、ランナーを製品に戻す技術の開発を進めた結果、製品の性能基準を満たす限界を確認することができたため、製品へのリサイクルを開始し、原材料の削減とコストダウンを図ることができました。

2002年のエンプラランナー再利用実績は知多工場が8,790kg（733kg／月平均）、半田工場が5,750kg（479kg／月平均）でした。

※ エンプラ：汎用の熱可塑性樹脂に比べて、強度、耐熱性などに優れ、主に工業用部品として使用される機能性の高い樹脂。

半田工場
技術課
佐藤　始

知多工場
樹脂製品製造課
久光敏夫

洋風便器タンク内「ボールタップ本体」にリサイクル

樹脂系再生資源の利用促進／HIPSを防水床パン用スペーサーへ再生利用

ユニットバスルームの防水床パンのスペーサーは、従来新品の塩ビ製でしたが、真空成形などで発生するHIPS廃材をリペレットして押出し成形し、再利用することで脱塩ビとHIPS廃材の利用拡大を実現しました。上野緑工場での2002年のHIPSの再利用量は17,640kg（1,470kg／月平均）でした。

※1 HIPS（ハイインパクトポリスチレン）：スチレンモノマーを重合して作られるポリスチレンにゴムを添加し、耐衝撃性を向上させた熱可塑性汎用樹脂である。家電製品やユニットバスのエプロン・天井・収納棚などに利用されている。

※2 リペレット：真空成形や射出成形にて成形した製品・廃材を粉砕・溶融・冷却・カットし、ペレット（粒）状の材料としたもの。

上野緑工場
生産技術課
小堀勝章

江別工場
設計係
渡辺憲司

HIPS廃材
粉砕品

HIPS廃材を再生したスペーサー

ユニットバスの防水床パンに使用

副産物を「エコ泥漿(でいしょう)」として再利用

衛生陶器は、国内はもとより欧米や中国など世界各地から原料を仕入れており、その原料を細かくすりつぶし水と混ぜ、「泥漿」と呼ぶ状態にして型に鋳込み、成形しています。「エコ泥漿」は、世の中で不要物として廃棄されていた副産物を多用した泥漿で、独自の技術によりその使用比率を約40%まで高めて、従来の天然原料使用量を大幅に削減しました。

この「エコ泥漿」は、まだ一部商品に使用している段階ですが、今後この泥漿を使った商品を増やしていくとともに、さらに環境負荷の少ない原料への代替化を進めていきます。

榎戸工場
技術課
橋本　淳

榎戸工場
技術課
菊池　崇

「エコ泥漿」を使った商品例

寿命商品の回収・再資源化システム構築

INAXの商品以外でも、循環型社会に向けた再資源化に取り組んでいます。

オカラ再生利用システム

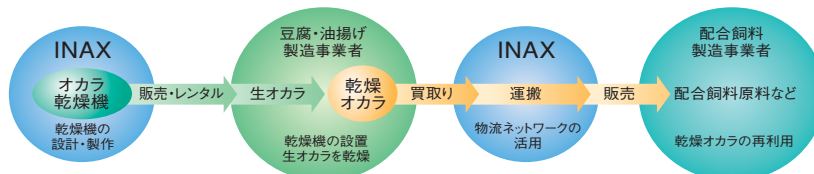
inax.co.jp/eco/technology/re_circuration/okara/

2002年4月、循環型社会の構築が強く求められる中、食品系廃棄物の再生利用を事業化しました。

大量に発生し、幅広い用途がありながら腐敗しやすいため有効利用が進まない『おから』に着目し、その再生利用事業を東海地区からスタートさせました。この事業は、豆腐工場から排出されるオカラをその場で瞬時に乾燥させ、でき上がった乾燥オカラをINAX物流便で需要家に届け、飼料原料などとして販売するものです。窯業で培った乾燥技術で高性能な乾燥機『オカラット』(=オカラがカラッと乾く)を安価で商品化でき、また国内を網羅する物流ネットワークを活用できるなど、INAXの強みを生かしています。

2003年1月、長野県北安曇郡で1号機の本生産が始まり、地域の食品資源循環に寄与しています。現在も問合わせが相次いでおり、一つひとつ確実に受注に繋げ、循環型社会の構築に貢献していきます。

●システムフロー

INAX
オカラ乾燥機
乾燥機の設計・製作
販売・レンタル
生オカラ
豆腐・油揚げ製造事業者
乾燥オカラ
乾燥機の設置
生オカラを乾燥
買取り
INAX
運搬
物流ネットワークの活用
販売
配合飼料製造事業者
配合飼料原料など
乾燥オカラの再利用

社外識者からの声 株式会社INAXの環境取り組みについての感想

株式会社トーマツ環境品質研究所
名古屋支店 支店長
間瀬美鶴子

株式会社INAXの環境推進室における担当者との質疑、関連資料の閲覧に基づき、同社の第3次環境宣言の実現に向けた「環境教育」及び「海外事業所」における取り組みについて、第三者としての感想を表明するものです。

したがって、環境報告書の適切性に関する第三者の意見表明を行うものではありません。

1.環境教育に関する取り組み

全職層対象の環境教育を全社教育体系に織り込み、特に社員職層と基幹職層については、環境経営実現を主要テーマとした職層別共通研修と機能別研修を整備されつつあります。eラーニングを活用し、今期約2,000名の社員職層へ共通研修を実施されたことは、環境活動をより一層経営と連動させ、循環型企業への進化を力強く推進する基盤づくりになったと考えます。環境経営の原点は、従業員ひとりひとりが自社の環境基本理念を充分理解し、職務を通じた環境配慮により、魅力ある製品・サービスを提供していくことにあると考えます。この意味において、来期予定されている社員職層の機能別研修、基幹職層の共通研修及び機能別研修は、職務を通じた環境配慮志向と実現を目指す点で実践的内容となっており画期的です。その成果を大いに期待いたしております。

教育の成果は、往々にして即効性が求めにくく具体的な計測がしづらいものの、継続的に適確な教育が実施されれば、成果は確実に獲得できると考えます。今期の環境教育でやや残念であったのは、構想から実施にいたるまでの期間が当初計画より遅れてしまった点です。環境変化が激しい中で、変革を促す教育はタイミング良く適確に実施されてこそ、一層良い成果をもたらすと考えます。今後はますます変化の激しい環境に、弾力的かつスピーディーに対応され、大きな成果を獲得されるよう期待いたしております。

2.海外事業所における取り組み

INAXグループの環境マネジメントシステム推進計画に基づき、海外事業所における(1)環境マネジメントシステムの導入、(2)環境リスク管理の整備、(3)INPUT/OUTPUT削減に関する計画が、順次実現されつつあります。

今期も計画どおり、蘇州伊奈建材及びVINAXでのISO14001認証取得、海外4生産事業所での水、電気、産業廃棄物、CO_2削減の目標管理活動を実施された点は、グループ全体での環境経営推進基盤を着実に整備されたといえると思います。来期予定されている海外2生産事業所でのISO14001認証取得と海外5事業所の危機管理体制構築、土壌汚染調査、遵法体制整備といった環境リスク管理体制整備も、順次計画どおり確実に実現されることを期待いたしております。

今回感想を書かせていただいた2つの取り組みは、第3次環境宣言の実現に欠かせない重要な取り組みです。これらの真の成果として、INAXグループが「つくる」、「つかう」、「もどす」を意識した魅力ある製品・サービスづくりを常に実現し、顧客からより一層広く支持される循環企業として進化し続けることを期待してやみません。

第三者からの声

アンケート集計報告／ホームページ環境サイト及びECO Report 2002に寄せられたご意見

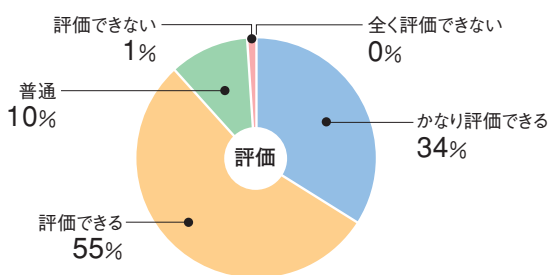
2003年4月末日までに、236件のご意見が届きました（資料請求含め566件）。冊子や環境への取り組みについて大変高い評価をいただき、誠にありがとうございました。

「ECO Report 2002」については「図・表を多用し分かりやすい」「第三者の声が多くて良い」「進捗一覧表が分かりやすい」というご意見が多く、その他「自社評価の掲載」「担当者の顔が見える」などの評価をいただきました。一方、「データ算出根拠」や「工場ごとの数値」「化学物質削減・リスクアセスメント情報」が不足しているとのご指摘も受けました。

活動に対し良い評価をされた理由に、全社で取り組む「姿勢」「環境理念」「目標（循環型企業への進化）の設定」等が多く、その他、「廃棄物削減」「エコ商品開発」「進捗管理」「取引先や地域とのパートナーシップ構築」などが挙げられていました。

今後の期待としては、さらに環境活動の推進強化を求める声が最も多く、生活者視点でのリサイクル推進、エコ商品の開発、環境経営の定着、地域に密着した活動、情報開示、広告宣伝等への要望をいただきました。2002年には、環境思想を伝えるコミュニケーションワード“eco ideas!”を発信しましたが、今後も循環型企業への進化を目指し、社会の持続可能な発展に向けて活動を進めます。ここにご意見の一部を紹介します。

●INAX環境取り組みへの評価（記入回答者数115名）

●回答者プロフィール（236名内訳）

●環境方針は経営のトップが1次、2次とねばり強くレベルアップしてゆく必要があることが分かった。（40代・男性・企業環境担当者）

●デザインは二の次になりがちですが、「高パフォーマンス商品の開発」という言葉に共感。（20代・女性・学生）

●社会的責任の大きな企業として、深いところまで踏み込んで考え、綿密に体系化している。（40代・男性）

●自然エネルギーを活かした環境親和技術の研究に興味を持ちました。（40代・男性・研究教育機関）

●産業廃棄物に関して生産部門だけが年々成果をあげているように思えた。まだまだエネルギーや廃棄物に対する意識が全体的に低い。（女性30代生活者）

●計画、進捗が詳しく記載されているが、もう少し定量化されると良い。

●達成しなかった取り組みに対し、明確な対策がない。（20代・男性・企業環境担当者）

●自社内の（CO_2排出量など）アセスメントの信頼性について触れて欲しい。（20代・女性・学生）

●どの商品が環境負荷が低いのかを例を挙げて紹介して欲しい。（20代・男性）

情報開示への要望や期待することは？

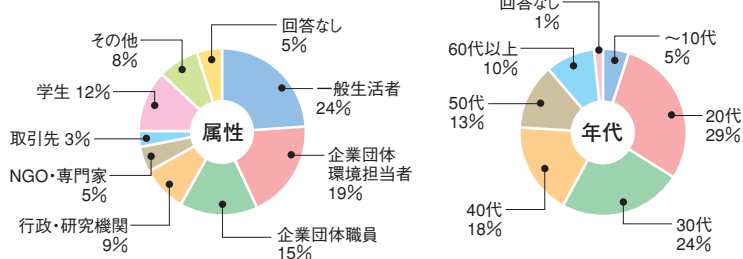
●材料の入手方法をこまかく開示して欲しい。（10代・男性・学生）

●家のエコシステムとしての商品アプローチを知りたい。例えば、排水システム（水の再利用）について。（60代・男性・生活者）

●化学物質過敏症の方々の使用具体例をあげて欲しい。ホルムアルデヒド以外の物質への対応についての記載。（30代・男性）

●昨今企業にとって都合の悪いことを表に出さず問題になっている。環境に関する事はすべてオープンに。（50代・男性・生活者）

●インターネットのほか、広告、CMなどで一般生活者にもわかりやすいように情報発信し、環境について考えるきっかけ作りをして欲しい。（20代・女性・生活者）

● 次世代を担う青少年らに分かりやすいものを。（60代・男性・その他）

●全体として情報量が多い。細かいデータはwebと住み分けては？（20代・男性・学生）

●最近バージン材を使う方が実は環境コストが低いのでは、という話を聞きます。たくさん取り組みをしているINAXだからこそわかる環境コストの試算とその結果の公開。（30代・女性・企業環境担当者）

今後のINAXの環境活動に期待することは？

●PRTR物質の削減。（企業環境担当者）

●第三者の意見を積極的にくみいれる事。（30代・男性・企業環境担当者）

●使用済み商品のリサイクル。（50代・男性・生活者）

●中部国際空港の開港も近づいてきましたので、更なる地域との連携した活動。（50代・男性）

●一消費者として、エコ商品とエコデザインの開発。（30代・女性・生活者）

●INAX製のトイレで使われている水は日本全体で年間どれくらいでしょう。雨水・風呂水利用など、下水のない地域に「発展した合併浄化槽」の開発。（50代・男性・企業環境担当者）

●業績や風評に左右されず、ポリシーを持って、今の姿勢をキープして。（40代・女性・生活者）

●循環型企業の先駆者として常に進んで行って下さい。（50代・男性・会社員）

●生物の生存、環境保護等々の基準でみた社会、自然貢献に寄与するアクションを。（60代・男性）

みなさまからお寄せいただいたご意見は、冊子制作の参考とさせていただきました。環境活動へのご指摘については、第3次環境宣言を進めていく中で、成果として応えていくことが重要だと考えております。
情報開示へのご要望には、ホームページの充実を図りながら、努力していきます。また、現在INAXが取り組んでいない課題についてのご意見・ご指摘については、環境戦略委員会はじめ社内関係者へ届け、INAXの企業活動や理念と照らし合わせながら、検討し対応していきます。

先進企業として、生活者とともにサステナブルな社会を創り上げる提案を

今年度は、環境レポートからサステナビリティレポートに進化し、環境問題に関する情報開示だけではなく、企業理念や企業姿勢、製品やサービスへの取り組みや事業を通した企業の社会的な役割なども盛り込まれていたため、どの方向に向かってINAXが進もうとし、その中でどう社会と共生しようとしているのかなど、十分理解しながら読み進めることができました。

私自身、多業種の環境報告書の作成支援をする立場として、以前からINAXの環境問題への取り組みは高く評価していました。特に、環境負荷の関連指標では、エネルギーや資源の投入量と排出量の把握に早くから着手され、他社のお手本にもなっていますが、今後、サステナビリティレポートの分野でも情報開示のモデルになると思います。「INAX5」に定められているサステナブルな企業を目指す上で、企業行動の基盤となるこの理念を、社内だけでなく社会全体にも広めていかれることを望みます。

経済性の面では、リフォーム事業の提案やユニバーサルデザインの展開、シックハウス対策なども興味深く、また社会性の面では、人事面での情報開示により、INAXが人をいかに大切に考えているのかがわかりました。行動指針なども浸透させ、社会からの信頼を最重視して企業価値を高めていることも伝わってきました。環境マネジメントシステム推進体制が、国内外子会社、さらには非生産系子会社まで幅広く整っている点なども評価できます。けれども今年度の記述は製造部門と物流部門に限定されているため、来年度以降は、素材調達に関する情報も充実して欲しいと思います。

薗田綾子
株式会社クレアン 代表取締役
GRI日本フォーラム事務局長

また、国内に限らないグローバルな情報開示も求められてきています。例えば、海外における資源調達の負荷や労働面で雇用や研修、人権などについての問題や働きがいなどについても言及されたほうが望ましいと思われます。今後、グローバル企業の責務として、海外事業においても環境と経済の調和が必要となります。

他にも気になったのは、水の問題についての記述が少なかったことです。2003年春に第三回世界水フォーラムが日本で開催されたこともあり、世界的にも水の汚染や水不足の問題が注目されています。地球上の限られた淡水の貴重さを改めて考えなければならない中、世界中の人々が日本人のように水をどんどん使い始めたら、どうなってしまうのかという危惧があります。INAXのライフサイクルデザインシステムでは、エコ推奨商品開発の評価を確立し、社内でも強化されていますが、節水率の目標は50%にとどまらず、100%循環する仕組みなどの確立といった、検討項目の見直しをしていただければと思います。

グローバルなサステナビリティレポートのガイドラインであるGRI項目に関係するものは、かなり網羅されていますが、さらにサステナビリティに向けた活動をレベルアップするためにも、GRIが提唱する、マルチステークホルダー・プロセスを進めて欲しいと思います。ぜひ今後、ステークホルダーミーティングやサステナビリティレポートを読む会などの開催による深いレベルのCSR（企業の社会的責任）的コミュニケーションを行い、社内外の意識変革と適合性のある情報発信を期待しています。

コミュニケーションについての試行

INAXは、生活者をはじめ、様々な方々と積極的にコミュニケーションしていきたいと考えています。現在、みなさまからたくさんのご意見をFAXやメールでいただいていますが、今後は、みなさまとの接点を少しでも深め、広げていきたいと考え、直接的な対話の機会を模索しております。本レポートに挿入しましたアンケートにお答えいただくなど、是非忌憚のないご意見をお寄せください。

ホームページ会社情報サイト inax.co.jp/company/
広報室 FAX：03-5381-7448

2002年 活動の記録（〜2003年3月）

2001年までの活動は、ホームページ会社情報サイトに掲載しています。 inax.co.jp/company/history/

蘇州伊奈衛生潔具、蘇州伊奈建材、蘇州伊奈陶瓷、杭州愛信伊奈機電有限公司の傘型会社として「伊奈（中国）投資有限公司」設立。

1月

- ●住彩館ハウスクエア横浜店オープン
- ●上海に直営ショールーム兼販売3号店オープン

2月

- ●リフォームキャンペーン展開　〜5月
- ●中国に投資会社「伊奈（中国）投資有限公司」設立
- ●ECO Report 2002発行
- ●ファインセラミックスフェア2002出展
- ●タンクレストイレsatis（サティス）日経優秀製品優秀賞受賞

海外で高級便器として人気の高いワンピース便器に、美しく調和するスタイリッシュなシャワートイレ・シートタイプ「LUSCENCE」を米国で発売。LUSCENCE公式ホームページ www.luscence.com/（英文）

3月

- ●INAXデザインコンテスト表彰式
- ●米国でシャワートイレ「LUSCENCE（ルーセンス）」発売
- ●セラミックスピーカー「TOVO（トーヴォ）」発売

社長が全国の支社・工場を回って、社員と直接膝を交えて語る「杉トーク」スタート。2003年4月までに全43回開催。

4月

- ●除菌イオン搭載「satis2002モデル」発売
- ●社長と社員が語り合う「杉トーク」スタート
- ●INAX文化スクエア「公共の色彩賞」受賞
- ●「バリアフリー2002」出展
- ●「立川ショールーム」オープン
- ●「サティスリトイレ」「ワンディリトイレパック」「Newリトイレ脱臭シャワートイレ」化粧台「リフラ」などリフォーム商品を拡充。
- ●シャワートイレ「PASSO（パッソ）」発売

既存の給排水管を利用し、1日でトイレ空間を変えるワンディリトイレパック発売。

5月

- ●常滑市の一斉清掃参加
- ●「蘇州伊奈建材有限公司」2期工事起工式
- ●購買センター主催「グリーンパートナーシップセミナー」開催
- ●「第5回 国際福祉健康産業展〜ウェルフェア2002〜」出展
- ●「INAXブランドステートメント&スローガン」発表
- ●ECO Report 2002「第5回 環境報告書賞優良賞」受賞

INAXブースには約13,000人の来場者が訪れ、お客さまの声を直接伺うことができました。

東洋経済新報社とグリーンリポーティング・フォーラム主催「第5回環境報告書賞優良賞」2年連続受賞。

6月

- ●システムキッチン「ベーシック・イスト」発売
- ●「藤沢ショールーム」オープン
- ●環境月間を機に各事業所で地域での清掃やリサイクル活動を実施
- ●Eco Report web追補版更新

7月

- ●「高崎ショールーム」オープン
- ●「シャワートイレ付きポータブルトイレ」発売

来館者が自ら広さ・レイアウトを確かめられる体感コーナーを設けた郊外型ショールームを高崎にオープン。

8月

- ●ベトナム合弁会社「VINAX（ヴィナックス）」第2棟建設起工式
- ●店舗・商業施設向け輸入タイル建材の販売会社「DINAONE（ダイナワン）」設立

キッチンをリビングの真ん中に置く新発想のリビングキッチン「ピアッセ」もグッドデザイン賞を受賞しました。

9月

- 「第29回 国際福祉機器展」出展
- シャワートイレ「PASSO（パッソ）」など13商品がグッドデザイン賞受賞

10月

- 「INAXトステムグループ行動指針」制定
- 「蘇州伊奈陶瓷有限公司」衛生陶器製造開始
- 「杭州愛信伊奈機電有限公司」シャワートイレ製造開始
- 「中国首届抗菌製品博覧会」出展

本格的な中国市場への進出に向け、衛生陶器をはじめ、タイル・建材、シャワートイレの生産体制が整いました。

11月

- 「VINAX」ISO14001認証取得
- シャワー・ド・バス搭載システムバス「i-bath2003」、リビングキッチン「ピアッセ」、ユーティリティ洗面カウンター「L.C.（エルシィ）」発売
- 「エコカラット」ホルムアルデヒド低減建材認定取得

入浴の新しいカタチ「ふたつのデザインスタイル」「ふたつの入浴スタイル」を提案する「i-bath2003」発売。

12月

- 「地球と私のためのエコスタイルフェア エコプロダクツ2002」出展
- 「蘇州伊奈建材有限公司」ISO14001認証取得

参加者とブース内をまわって、商品のエコ度クイズに答えるエコ・ツアーも好評でした。

2003年 1月

- タンクレストイレ「satis」10万台突破
- ECO Report 2002「環境レポート大賞業種別奨励賞」受賞
- 食品廃棄物再生利用事業「オカラ乾燥機」1号機納入、稼動開始

2001年4月発売の『satis』は、除菌イオン搭載モデルや、リフォーム対応タイプなどバリエーションを拡大。洗練されたシルエットの中に最先端の機能をコンパクトに搭載し、その高いデザイン性と機能性が多くの生活者から支持されました。

2月

- 環境教育プログラム「eラーニング」開始
- タイル博物館シンポジウム「常滑をアーティストの住む街に」開催

3月

- satis「ecotエコグッズ大賞」受賞
- 知多事業所「太陽光発電システム」稼動
- 大谷工場「コージェネレーションシステム」稼動
- 伊賀工場「2002年度日本環境経営大賞優秀賞」受賞

陶芸作家はじめ各界で活躍する8人のアーティストを囲んで、シンポジウム＆立食パーティを2回に渡って開催しました。

通期

- 経営統合によるシナジー効果創出のための取り組みを継続
- タイル博物館「やきもの新感覚シリーズ」、INAXギャラリー各展示会を定例開催
- 第3次環境宣言活動中

INAX、トステム初の共同開発商品
戸建住宅用システムバスルーム『e-bath BX』4月1日両社同時発売

INAXとトステム社は、経営統合によるシナジー効果創出に努めていますが、2002年度の活動の成果として、2003年4月に初の共同開発商品『e-bath BX』を両社それぞれのメーカーブランドで発売しました。普及価格帯をターゲットとした戸建住宅用バリアフリーバスルームで、「デザインと機能性の両立」を追求し、全機種が「家族みんなが使いやすいバリアフリー」「お手入れカンタン」「人と地球を考えたものづくり」を基本設計としています。